

# IV 資 料

○ 令和元年度筑波大学教員免許状更新講習シンポジウム	77
・ 講演「オリンピックの舞台裏～3大会のオリンピックチャレンジを通して～」 日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンス戦略部戦略課 専門スタッフ 千田 健太 氏	
・ シンポジウムに関するアンケートの様式	90
・ パネルディスカッション 受講者代表の発表内容	
茨城県つくば市立吾妻小学校 教諭 柳橋 茜	91
茨城県つくば市立秀峰筑波義務教育学校 教諭 加瀬 雄一	93
茨城県立つくば特別支援学校 教諭 杉本 クニ子	95
・ シンポジウムのチラシ	97
○ 令和元年度教員免許状更新講習実施体制	99
○ 令和元年度 申込状況, 講習別受理状況, 都道府県別状況	100
・ 令和元年度 教員免許状更新講習申込状況一覧	100
・ 各講習区分の日計	101
・ 令和元年度受講者履修パターン	102
・ 必修 A 受講者受理状況・選択必修 a 受講者受理状況 選択 B 受講者受理状況 選択 C 受講者受理状況 選択 D 受講者受理状況	100
・ 令和元年度 教員免許状更新講習状況結果（関東圏・都道府県別）	107
・ 令和元年度教員免許状更新講習受講者の居住地（全国）	109
・ 令和元年度教員免許状更新講習受講者の居住地（茨城県内）	110
○ 受講者評価書の集計結果	112
・ 全体の集計結果	
・ 必修 A の集計結果	
・ 選択必修 a の集計結果	
・ 選択 B の集計結果	
・ 選択 C の集計結果	
・ 選択 D の集計結果	
・ 受講者評価書（事後アンケート）の様式	
○ 2020 年度の講習計画	119
・ 講習区分別の日程一覧	

## 令和元年度筑波大学教員免許状更新講習シンポジウム

日時 令和2年2月15日(土)

講演 「オリンピックの舞台裏 ～3大会のオリンピックチャレンジを通して～」

講師 千田 健太 氏 (2012年ロンドンオリンピック フェンシング男子フルーレ団体銀メダリスト)

(千田) 皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました、フェンシング元日本代表の千田健太と申します。多くの先生方の前で、今回私が登壇するということで、少し不安な部分もありますが、限られた時間の中でお付き合いくださいませ。よろしくお願いいたします。

ただ今、宮崎先生よりご紹介いただきましたので、このあたりの自己紹介は割愛させていただきますと思います。今年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されますね。皆さん、つくばの地域は、あまりフェンシングが盛んではないということでしたので、なじみがないと思いますが、最初にフェンシングについて、簡単にご説明させていただきます。

フェンシングのルールは、おそらくご存じではないですね。フェンシングというのは、他の競技と違いまして、限られたスペースというのがありまして、横幅が大体1.5メートルから2メートルで、前後の長さが14メートルという細長いコートの中で、1対1になって戦う競技です。最初は4メートルの間で向かい合ってスタートして、最後の14メートルのラインを越えると、相手に点数が1ポイント入ることになります。横の移動はほとんどなくて、大体前に出たりとか、後ろに下がったりとか、前後の動きが中心になります。

フェンシングというと、特徴的な道具としてマスク＝お面と、剣とユニフォームというのがあるのですが、それぞれ形も違うのです。種目によって違うのです。

フェンシングは何種目あると思いますか？ 1種目だと思いますか？ それとも2種目だと思いますか？ 3種目だと思いますか？ 実は、フェンシングは3種目なんです。オリンピック競技も3種目ありますし、あと、大体他の一般の大会でも3種目で実施することになります。

どのように種目が分かれているのかといいますと、「突いて得点になる有効面」が違うのです。例えば、(スライドの一番左の)「エペ」という種目でしたら、全身のどこを突いても大丈夫で、得点になる種目になります。頭もいいですし、足の先、手の先、どこでも突いて得点になり、これが一番シンプルなルールになります。

その他に、(スライドの中央の)「サーブル」という種目は、上半身だけが有効面になります。下半身は一切得点になりません。(スライドの一番右が)、私がずっと専門でやってきた「フルーレ」という種目になるのですが、これは手、足、頭を除く体の胴体の部分が有効面です。お腹、胸、そして背中、そのあたりが有効面になります。

細かい部分を申し上げますと、「エペ」は全身有効面の競技で、とにかく先に突けば得点になります。「サーブル」というのは、元々はハンガリーの騎馬隊から派生したスポー

ツになり、騎馬戦ということで、「馬を傷付けてはならない」という取り決めの下に行われているので、下半身の攻撃は一切だめ。フェンシングの3種目の中でも一番特徴的な「切る」という動きが中心になります。これが剣道に近い動きで、剣道からフェンシングに転向する人は、結構「サーブル」を選んだりします。最後に一番有効面が狭い「フルーレ」という種目は、胴体、黄色の部分が有効面になります。

その3種目それぞれ、例えば有効面も違いますし、突きだけの種目、あるいは切る種目、そして剣先は、実は500グラム以上突いたらランプがつくとか、750グラム以上突いたらランプがつくとか、もしくは「サーブル」などは触れたらランプが点灯するとか、それぞれ細かいルールがかなり違うので、最初にフェンシングを見に来た人は、ルールが結構複雑すぎて、あまりよく分からないまま帰ってしまうお客さんもいるのです。大体の方は、やはり2回、3回、4回等、結構な数を見ないと、中々フェンシングのルールというのは、あまりよく分からないのではないかと思います。

また、フェンシングのオリンピック競技は、個人戦、団体戦に分かれております。個人戦は1対1で、予選は5本勝負の総当たり戦。その総当たり戦の結果を基に、決勝トーナメントの3分間×3セットの15本勝負で、15点取った方が勝ちになります。団体戦は、3人対3人の総当たり戦で、5本勝負のリレー方式になるので、合計で45点を先に獲得すると、そのチームの勝ちになります。

こういった、大体のルールはご説明したのですが、結構複雑なルールになりますので、何回か見に来ていただいて、そして本番の東京オリンピックも是非テレビで、そして会場で見ただけだったらいいと思います。

次に、私自身の話に戻ります。実は、私はフェンシングを始めたのは13歳の時でした。元々はサッカーや陸上や野球、色々なスポーツをやっていました。小さいころの夢は、サッカー選手になることでした。高校を卒業して、地元が宮城県気仙沼市だったので、その頃は、地元の仙台にあるチームのサッカー選手になりたいと思って競技をやってきたのです。けれども、中学校1年生の時に、僕よりもうまい選手がまわりにたくさんいたのです。その時に、「このままではサッカーでは無理だな」と思いまして、何か違うスポーツ、「何か新しいことに挑戦してみよう」と、たまたま近所にあったフェンシングクラブを見付けて、「このフェンシングのスポーツだったらいけるかもしれない」と思い、サッカーの夢を諦めて、フェンシングの世界に飛び込みました。

学校の部活動ではなくて、フェンシングの場合は地元のクラブだったので、そのクラブの指導者の方がとてもフレンドリーに接してくれて、とにかくその練習もそうですけれども、そのクラブのコーチと話をするのがすごく楽しみで、毎回毎回フェンシングの練習を楽しみながらやってきた、というのが大きかったです。

次に、私自身の話になります。フェンシングというのは、特に階級制というのがないのです。みなさんからは、フェンシングの才能が私にはあったのではないと言われるのですが、全然そのようなことはなくて。スライドの映像で見ると、私は右側にいるのです

が、世界でもすごく小柄な部類なのですね。実は、身長が 170 センチメートルはなくて、169.5 センチメートルぐらいですけども、世界の、例えば中国とかロシアの大きい選手と対決すると、かなりの、30 センチメートルぐらいのリーチ差がよくあるので、このようなリーチ差にすごく苦しんだことがありました。

また、私は左手で剣を握っているのですけれども、実は元々の利き手は右利きなんですね。私生活は、もう子供の頃からずっと利き腕は右で、お箸を持ったりとか、鉛筆で書いたりとかを右でずっとやってきたのですが、そのフェンシングクラブに入った時に、右利きが多くて、みんな右でフェンシングをやっていて、余ってる剣が左剣しかなかったのです。それで、コーチに「君は今日から左利きになりなさい」と言われまして。その時に左で剣を持って、その日から利き手を変えるというのは結構難しくて。やはり、握力がそれほどないです。最初はやはり、蛇口をひねる手を右から左に変えたりとか、あとはお弁当を食べるお箸を右から左に変えたりとか、利き手を変える訓練を毎日やってきました。

フェンシングでは、例えば野球のように、左バッターボックスの方が一塁ベースに近いとか、そのような物理的な有利点は特になくて、対人競技なので、左利きの方がフェンシングの人数が少ないので、人数が少ない分はやりづらいというのはあるかもしれませんが、完全にトップレベルの選手たちは、もう左利きでもみなさんやり慣れているので、やはり最後は利き手のナチュラルな人の方が、ランキングが上にあがるということがありましたので、私は未だに「利き手の右手でフェンシングをやっていたらよかった」とはすごく思います。

でも、その中学校 1 年生からフェンシングをずっと始めて、フェンシングにはまってしまって、ずっと毎日毎日、繰り返しフェンシングの練習をするようになって。それで大学 3 年生の時に初めて国際大会に出場して、最初は日本代表の補欠に入り、国際大会を転々としているうちに、徐々に実力を付けていったのだと思います。

この時、やはりオリンピックというのは中々遠い存在だったのですけれども、一つずつ目標をクリアしていくごとに次の目標が見えて、さらにまた次、次、というように、一つずつ目標を達成していったことがあります。この時は大学生だったのですけれども、私が大学生の時も、やはり日本のフェンシングというと、オリンピックでメダルが取れる競技では全然なかったのです。この時は、大体 2005 年、2006 年ぐらいだったのですけれども。この時に、日本フェンシング協会が、2004 年のアテネオリンピックで惨敗したのです。一応選手は出したのですけれども、出る選手がみんなすぐ負けてしまって。それで、専務理事の方が「これではだめだ」ということで、日本のフェンシングのトップが全部入れ替わり、「2008 年の北京でメダルを取ろう」と本気でメダルを取りに行こうということを決心して、ある政策をしたのです。

ところで、このスライドは、皆さん、どこか分かりますか？ 今の「ハイパフォーマンススポーツセンター」という所ですけども、これは 2001 年に最初は「国立スポーツ科学センター」ができて、そこから「ナショナルトレーニングセンター」が増設されて、こ

のあたりを総称して「ハイパフォーマンスポーツセンター」という建物になりました。ここに代表選手はすぐに集められて、それで「500 日合宿」という名目で、日本代表として缶詰になって、ずっと練習したということがありました。

当然、予算も限られていました。フェンシングは3種目があり、男女に分けると、合計6種目になりますが、フルーレの有力選手が選抜されて、予算を集中させて、集中的にここ（ハイパフォーマンセンター）で強化をしていきました。この当時は大学生でしたので、授業とのバランスもすごく大変で、八王子の大学のキャンパスと東京都北区赤羽のここを毎日行ったり来たりと往復しながら、ずっと練習をしてきました。

日本代表のスケジュールは、スライドのような年間スケジュールになるのですが、1年間ずっと試合をし続けて、大体、年間国際大会が10大会あり、国内大会も含めて、1年の中で、どこがシーズンというわけではなくて、満遍なく試合がある中で、ポイントを毎回毎回コンスタントに取って国際ランキングを上げて、オリンピックに向かわなければならないというのがフェンシングの大変なところです。特に、7月のアジア選手権、世界選手権のあたりは一番点数配分が高いので、そのあたりに自分の一番のピークを合わせなければなりません。

そういったことで、順調にあって、初めての北京オリンピックを迎えることができました。やはりフェンシングの場合、オリンピックというのは世界最高峰の舞台であるというのは、フェンシングの人たちの中でも共通認識ということで、このオリンピックに出場するために、1年間で数多くの国際大会でポイントを重ねていって、それが国際ランキングに反映されて。私は、最初の北京のオリンピックはアジアの2枠の中にうまく入ることができて、それでオリンピックの出場をつかみました。

以前、テレビの番組で特集を受けたことがあるので、その番組を少し紹介したいと思います。

（映像）

（千田） はい。今映像の紹介にありましたが、私は世界でも、たぶんオリンピックに出場してる選手の中で一番身長が低いということと、あとはやはり利き手が全然違う左手でずっとフェンシングをやってきて、それでよくオリンピックまで行けた、運よくオリンピックまで行けたなど、今でも思っています。

このスライドは、オリンピックの試合会場の様子です。かなりの人で、私の家族もオリンピックの応援に来たのですけれども、チケットを取るのがすごく大変で、結局、割高の料金で買ったと言っておりました。

選手村の様子ですけれども、選手村には首にぶら下げているIDカードで、全てセキュリティーレーンを通して部屋に行ったり、あとは食堂に行ったり、そして練習会場、試合会場を行ったり来たりするような生活をしていました。大体部屋の中は3LDKの普通のマンションですね。普通のマンションで1部屋2人、ベッドを二つ置いて生活していくという、本当に普通の生活でした。これは食堂の様子ですけれども、大体ヨーロッパコーナ

一、アジアコーナー、アフリカコーナーとか、各地域の食事のコーナーが分かれております。それでこの時に一番大きいスポンサーだったハンバーガー店がありまして、そこが一番混んでいました。意外と、トップアスリートでも「ジャンクフードが大好きだ」という人が結構いました。

そのような初めてのオリンピックになりますが、結果はベスト 16 と、2 回戦敗退でした。なぜ負けたのかというと、一言で言うと、やはり「オリンピックの波に飲まれた」というところがすごく大きいですね。

オリンピックというのは、他の大会と違ひまして、長い予選があります。それで長い予選を勝ち抜いたら、その後に、例えば結団式とか壮行会とか。そのような長い道のりを経てたどり着く舞台なので、やはり自分の夢の舞台であるので、すごく緊張してしまうんですね。実際は、ただ対戦相手がいて、いつもと変わらない普通のコートなのに、何かこう、想像以上にオリンピックというものを膨らませすぎてしまひまして、それで自分の本来の力が発揮できなかった、と今でも思っています。

2008 年のこの北京オリンピックだったのですが、この時は個人戦しか実施されなくて、僕と太田雄貴という同級生の選手が 2 人出場したのです。けれども、実際、私は 2 回戦敗退で、彼(太田雄貴)は個人でメダルを取ったのですね。なぜ取れたのかというと、彼は 2004 年の、前回のオリンピックに出場していたのですね。やはりオリンピックは、2 大会目でメダルを取る選手というのが圧倒的に多くて。「オリンピックの流れというのを理解しているのと理解していないのでは、全然大きな違いがあるのだ」というのは、この時に思ひました。

例えば前日、4 年間今まで積み上げてきたことがたった 1 日で決まってしまうと思うと、緊張してもものすごく眠れないのです。実際に眠ったのは 1 時間、2 時間ぐらひかなというぐらひ、全然緊張して眠れなくて。横の選手(太田雄貴)を見ると、すやすや眠っているのですよね。なんで眠ることができたのかを後で聞いたら、睡眠導入剤を入れて寝ていたという。そういう準備とかも全然できてなくて。そういう一つ一つのシミュレーションというのがなくてこの大会を迎えたので、やはり本来の力も出しきれずというところもありました。そのような悔しい経験を経て、「次の 2012 年のロンドンのオリンピックは、必ずメダルを取りたい」と思ひ、次に向かう決意を固めました。

運よく、次のオリンピックに向けて、2008 年の時期に、文科省が、「マルチサポート」という事業を始めました。メダルの獲得が期待される競技が、スポーツ科学、色々な戦略的な包括的なサポートを受けられるように始まった事業になります。フェンシングの他にも色々な事業がある中で、フェンシングはターゲットランク A、B、C のうち「ターゲット B」というところに設定してもらひ、オリンピックでメダルを獲得するために、さまざまなサポートを受けることができました。

こういったサポートがたくさんある中で、色々なことが大事なのですが、特に、私はそれまでメンタルが不安定だったので、メンタルトレーナーを付けていただきまし

た。また、スライドに「練習パートナー」と書いてありますが、日本人ではなくて、海外から大柄な外国人をパートナーとして呼んでもらえる予算も付けてもらいました。あとは大きかったのは、用具開発です。フェンシングの用具というのは日本で作っていないので、大体ドイツとかイタリアの、ヨーロッパの輸入品を使うので、中々日本人の手に合わないのですが、オーダーメイドでグリップを作ることができました。それこそ、このつくばの研究員の方がオーダーメイドで、3D プリンターを利用して、自分の手に合うグリップを開発してもらいました。

その他にも、映像分析を使うために各大会にアナリストを派遣してもらいまして、全部の試合をビデオに収めて、例えばこの選手は攻撃が何パーセント、防御が何パーセントで点数を取るのかなど具体的な数字を出してもらい、他の国には中々できないような戦略をサポートしてもらうことができました。

このようなオリンピックに向けて準備が色々と整っている中で、「よし、これでオリンピックに向けて準備が整ってきた」というところがありましたが、オリンピックの前年に予期もしない、私にとっても忘れられないことが起きました。それが東日本大震災なんです。

私は宮城県気仙沼市出身ですが、この時はドイツの合宿中でした。これからオリンピック予選に向かうというところで、こういった大きな震災をドイツで知ることになりました。これまで私がお世話になったコーチも被災しましたし、そして私の親友も亡くなりました。私にとってもすごく気持ちが落ち込みまして、「フェンシング、スポーツしていいのか？」という時期、思い悩んだ時期がありました。

もちろんオリンピックレースも始まっていたので、その試合に出たのですけれども、心ここにあらずということで、「出ては負けて」、「負けて」・・・とその連続で、一時期はオリンピックに出られないのではないかとというところまでランキングも落ちてしまいました。「ああ、私はこのまま何もできずに現役を引退してしまうんだろうな」ということを思い始めたら、何か悔しくなっていました。そして、自分にできることを精一杯やって、最後、現役を終えようという決意を固めました。そして、気持ちを切り替えて、オリンピックの舞台に再び立つために、色々なできることをとにかくやりきりました。

練習以外にも、スポーツセンターには、リカバリー施設とか、あとはリハビリ施設、トレーニングジムとか色々な物がそろっているので、とにかく練習時間以外にも、色々なあらゆることを尽くして自分を強化して、試合で結果を出すためにやりきりました。家で休んでいる時も、オリンピックの試合に出られるようなランキングの位置の選手というのは、大体この数カ月前には決まっているので、その対戦相手の分析を家でしっかりとチェックして、オリンピックに備えて、とにかく色々な時間を使って準備をかけました。

これが2回目のオリンピックの舞台なのですが、やはり4年に1度のプレッシャーということで、この時も2回目とはいえ、オリンピックのプレッシャーというのは、ものすご

く感じていました。何がすごいのかというと、1回目と比べて2回目のオリンピックというのは、その分たくさんの人にお世話になっているということを感じていましたので、1回目とはさらに比べものにならないくらい、2回目の方も緊張しました。

しかし、2回目のオリンピックは、色々なことを準備してきたので、準備してきたことをうまく試合にぶつけることができまして、対策もばっちりでしたし、自分のコンディションもうまく合わせることで、試合で良いパフォーマンスを発揮することができました。

この映像は、この時の試合の様子です。団体戦について、最初にご紹介しましたが、団体戦は45本勝負で3人对3人の合計9試合の中の、これは5試合目の映像になります。決勝戦はイタリアと対戦している映像になります。

(映像)

(千田) 私は左側で、右がイタリアの選手になります。45本勝負の途中の、これは5試合目で、日本チームが17点、そしてイタリアのチームが19点のところからスタートになります。

(映像)

(千田) フルーレは、真ん中の銀色のジャケット（ちょっとギラギラしているのですが）、その銀色のジャケット部分を突くと点数が入ってポイントになる、という種目になります。それ以外の、手と足とか関係ない部分を突くと白のランプが点灯して、それで点数にはならない、というルールになっています。

(映像)

(千田) 中々ここも難しいところなんですけれども、両方の選手が銀色のジャケットの部分を突いて、緑、赤の色ランプがつくと、どちらにも点数は入らずに、先に攻撃を仕掛けた方だけに点数が入るようになっていきます。それは、審判がどちらの攻撃が、より有効だったかを最後にジャッジして、選手の一方に点数を与えるというルールになります。

(映像)

(千田) 剣の先にセンサーが付いているのですけれども、剣先のセンサーは500グラム以上の突きでランプがつくという仕組みになっています。

(映像)

(千田) 今の場面は、どちらもランプが点灯しているのですが、イタリアの選手の方が先に攻撃をしているので、イタリアの選手にポイントが入りました。

(映像)

(千田) この場面も、どちらにもランプがついているのですけれども、左側の私の方が動くのが早かったので、私の攻撃が無効面になって、今の場面は、ノーカウントになります。

(映像)



(千田) ジャッジに納得がいかないと審判にビデオリプレイの請求ができて、それで今、審判がもう1回見直して、それで特に異論はなかったということでノーカウントになりました。

(映像)

(千田) 今の場面は、右側のイタリアの選手の得点になったポイントです。

(映像)

(千田) 今の場面は、左側の私のポイントになりました。

(映像)

(千田) このように、対戦相手と、あとはやはり審判がどう見えるのかというのがすごく重要で、やはり審判へのアピールというのはかなり重要なスポーツになります。少し長くなってしまうので、次にいきます。

このロンドンの決勝戦の時は、朝から試合が始まり、夜の7時ぐらいだったので、日本だと深夜の3時、4時とかの時間なんですけれども、田舎(気仙沼市)の自宅の様子ですが、たくさんの人が応援にきてくれて、本当に、この人たちに応援してもらったことはすごく助かりました。

私の父と母と弟が現地のロンドンまで応援に来てくれて、この時は85歳の祖母1人だけ家で切り盛りしてくれまして、応援の人たちのためにおにぎり150個を深夜に握ったということでした。メダルを獲れたことを祖母に報告したら「おめでとう」と言われるのかと思いましたが、「頼むから、オリンピックは最後にしてくれ」と言われたのを覚えています。(笑)

その時の、オリンピックが終わった時の映像をお見せしたいと思います。

(映像)

(千田) 今、ロンドンの映像を見てもらいましたが、ロンドンの後にリオのオリンピックでまた金メダル、今度は団体の銀よりもさらに上の金メダルを目指したいと思って競技を続けて、3大会目のオリンピックに向けて頑張ってきたのですが、最後の選考のレースの争いで中国と一騎打ちになりまして、最終的に中国と日本でアジアの枠を狙いましたが、そこで負けてしまって、最後ぎりぎりでもオリンピックの出場権を逃してしまいました。リオの後に地元で国体がありましたので、その国体に出場して、最後に準優勝で終わり、引退することになりました。

現役生活はリオで終わりました。現役が終わった後なのでありますが、振り返って、今でも大事にしていることがあります。今まで非常にまわりの方たちにすごく恵まれてきたと、正直に思います。左上の写真は日本代表選手で集まって、一緒にごはんを食べた時の写真ですが、フェンシングというスポーツは個人スポーツであって、団体スポーツでもありますし、この人たちみんなはライバルであって、仲間でもあります。

フェンシングはずっと勝ち続けられるスポーツではないのですね。世界チャンピオンというのは毎年出ますけれども、大体その年に研究されて、次の年に勝てなくなるスポーツ

なのです。オールラウンダーというのはいなくて、大きい選手、小さい選手、そしてスピードが遅い選手、速い選手、色々なタイプの選手がいて、その特徴ある選手一人一人にうまく試合で勝っていかなければならないスポーツです。それにはまわりの人たちの助言だったり、後ろからのバックアップだったりというのが本当に欠かせないことです。日本チームはうまくまとまって、そして助け合いながらオリンピックまで頑張ってきたと思います。

下の写真は、気仙沼のふるさとの写真です。このような方たちも、オリンピックに僕が出場した時も、震災で大変な中で、たくさん応援してくれたり、やはりオリンピックが終わってもお祝いしてくれたり、また次のリオに向かってもたくさん応援してくれたりしたというのは、すごく感謝しています。このような方たちのおかげで今まで競技人生はやってこられましたので、アスリートだけが注目されますけれども、まわりの方たちの支えがあって、本当にここまで来られているのだと、改めて思いました。

アスリートで生きるというのは難しいことだというのは、本当につくづく思います。自分は決して、今まで勝ち続けたわけではなくて、失敗も何度も何度も繰り返しました。何度も負けているうちに試行錯誤して、それが成功につながって。それでメダルが取れたかと思ったら、次はまたすぐに負けてしまう。そういう勝ったり負けたりする中で、「本当にシビアな世界だな」ということは改めて感じます。みんなが目指しているオリンピックの金メダルというのは、やはり一人しか取れないのです。本当にシビアだし、全員が成功をつかめるわけではないのですけれども、それでもやはり、私はフェンシングのこの道が好きだなと思ってずっとやってこられて、そしてまわりの方たちとうまく楽しくやってこられたということは、すごく貴重な財産だったなと思っています。

今、トップアスリートを引退してから4年が経過しようとしています。今現在は、日本スポーツ振興センターのハイパフォーマンス戦略部という部署で、オリンピック・パラリンピック競技で金メダルを取るためにどうすればよいか、色々なサポート、支援をして、すごく楽しみながらやらせてもらっています。そのような、今度はスポーツを支える立場として、これからスポーツを始めていく人たちのためにも、スポーツによってやはり人生が豊かになっていただけるように、自分自身のセカンドキャリアとしてこれからも頑張っていきたいと思いました。

以上で私の講演は終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(司会) どうもありがとうございました。先ほど、実はお昼にみんなでお弁当を食べていた時に、「(千田先生は)左手でお箸を持っていらっしゃるな」「では、左手の選手の苦労話が聞けるかな」など思いましたが、もっと大変だったのですね(笑)。今回のご講演で、「諦めなければ乗り越えられる」「試行錯誤」など、われわれにもすごく勉強になるお話がたくさんありました。また、気仙沼市の方々のつながりもいいですね。

テーマが「オリンピックの舞台裏」でしたので、オリンピックのあるある話(裏事情)を話されるのかと思いましたが、そのような話ではなくて人とのつながりのお話を本当に伺うことができて、とても勉強になりました。どうもありがとうございました。

(司会) もし先生がお許しいただけるのであれば、フロアから質問を受けてもよろしいでしょうか? ありがとうございます。せっかくの機会なので、こんなチャンス中々あるものではないので、是非、千田先生に教えていただきたいこと、ご質問ありましたら、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか?

(司会) かすみがうら市の先生、是非お願いします。

(質問者1) それではご指名です。千田先生に大変貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。何か質問ということでしたので、オリンピックに出場されて、その中で、向こうでの慣れない生活の中で健康(管理)というか、自分の体調を万全にしながら試合に臨むにあたって、特に注意して現地で生活していたことは、どんなことなのかを、お聞きできればと思います。よろしくお願いします。

(千田) はい。ご質問ありがとうございます。少し難しいですけども。各遠征は、大会の大体2日前に入るのですけれども、それは時差調整でして、その時にトレーナーさんの指示を受けました。例えばコンディショニングの部分では、そこでじっと、ホテルに着いて休むのではなくて、ある程度外で体を動かしながら血流をよくして、それで疲れを次の日に残さずに寝るとか。あとは栄養管理で、食事面は特に気を使いました。栄養士さんの指示を受けながら、そういった現地で、なるべく油物を控えるとか、体に良い物を選びながら、体調管理に気を付けていきました。

(質問者1) ありがとうございます。

(司会) どなたかいらっしゃいませんか? では、先生、よろしいですか?

(質問者2) すいません、失礼します。神奈川から参りました。今度、先生は今、サポートであったり、あとは後輩の育成をされているのかとは思いますが、大会間際の選手というのは、自然と一生懸命やるとは思いますが、もし大会から少し遠ざかっている時に、そういう選手を育成する際に、どのようなことを心がけて、その大会への気持ちを(高められるように)もっていったり、あとは思い描くような試合をしてもらうためにどのようなアドバイスをしているのか、もしよろしければ教えてください。

(千田) はい。すごく難しい質問だと思うのですけれども。本当に、フェンシングの場合でも、どのように勝っていくかというのは、本当に、やはり人それぞれのやり方は全然違うなというのはすごく今まで経験して、すごく感じていますね。私のやり方がすごくスタンダードだと思っていたところ、チームメートの他の選手には全く当てはまらなくて、そして「ここから(突いて)来るのか」、「この角度で(突いて)来るのか」というような特徴をもつ選手もたくさんいます。やはり人それぞれで、やってみないと何が成功で、何が失敗なのか分からないという、人それぞれで特徴的なスタイルがあるのがフェンシング

だったので、実践で試してみるところからがスタートだというのは、よく感じます。ありがとうございます。

(司会) では、その他にある方は？では、お願いいたします。

(質問者3) 小学校や中学校ぐらいの生徒や子どもたちに対してのサポートや大人からのサポートとかについて関わりたいので、特に千田先生が、「こういうところが非常に役立ったな」とか、「感謝してるな」という点があったら、教えていただきたいです。

(千田) はい、ありがとうございます。私が、最初に(フェンシングを)始めたクラブがあるのですが、そのスポーツ少年団のコーチには、すごく今でも感謝しています。なぜ感謝してるのかと言いますと、それまで学校の部活動は、サッカーをずっとやってきましたが、団体スポーツをやってきて、負けたら「なぜ失敗したんだろう？」というようなことを考えた時に、「あれがだめだった」という失敗探みたいな形になってしまっていたのですが、その始めたクラブのところでは、結構コーチもフレンドリーで、結構褒めて伸ばすタイプだったんですね。何か技ができた時に、褒めてくれたし、「おお、これができるんだ。すごいな。」と褒められた時は、やはりすごくうれしくて、次の練習までに、「今度はこれをやってみよう」と、もっとポジティブに、結構自主的に練習できたというような気持ちの部分がすごく大きかったというのは、今でも思っていますね。

(質問者3) ありがとうございます。

(司会) つくばみらい市の先生、よろしくお願いいたします。

(質問者4) 小学校の教員をさせていただいております。今日はどうも貴重なお話をありがとうございます。先生のお話を聞いて、非常に色々なことを考えたんですが、私はフェンシングというスポーツについては、大変無知なんですが。世界を相手に戦ってこられたと思いますが、先生がロンドンオリンピックで見事メダルを取られた。それまでには世界と差を埋めるために、色々なご努力をなさってきたと思うんです。一番、世界のフェンシングというところで、世界と一番差を感じたという部分と、そこを埋めるために、大概努力なさったと思いますが、意識したことなどを教えていただけると大変助かります。すいません、まとまらない質問ですが、よろしくお願いいたします。

(千田) はい。世界との差を一番感じたというのは、大きく分けると、体格差がものすごく大きかったので、最初に出場した国際大会で、190センチメートルを超えるロシア人にもう、ものの見事に、もう10秒ぐらいで負けてしまったというところから始まって。やはりこの体格でオリンピックは無理だろうなというのは、中学校の時にうすうす気付いていたのですけれども。それを埋めるような努力というのは、本当に自分の長所を徹底的に探し出して、それで色々なコーチにアドバイスを受けました。それで分かったのは、私のフットワークというのは、他の人よりも少し勝っているなというところがあったのです。そういうフットワークを武器にして、長身選手に対してもタイミングとか距離というもの徹底的に測って、そこに活路を見い出して、接近戦での勝負というのを徹底的に磨

いていきましたね。それは自分では気付かないところだったのですけれども、仲間とかコーチのアドバイスによって、どんどん磨かれていった部分なのかな、と思います。

(質問者) ありがとうございました。

(司会) どうもありがとうございました。では、はい。

(宮崎) 質問していいですか？

(司会) もちろん。では、マイクをお渡しします。

(宮崎) 先生、ありがとうございました。すごく色々聞きたいことがあるのですけれど。先ほど映像を見せていただいて、すごく気になったのは、ロンドンのイタリアの選手と対戦している時に、向こうの選手はやたらとマスクを取って、やたらと顔を出して、やたらと文句を言って、その度に何か結構アピールして、千田先生は冷静に対応されてたので、ああいう時に（相手選手は）何を言っているのか、やはりあれも作戦なのか？と思いました。先ほど、メンタルサポートのお話でサポートがすごく力になったとおっしゃっていたし、試合の中の審判へのアピールも大事だともおっしゃっていましたので、そのようなところを含めて、あの場面で何を言っていたのかをお聞きしたいです。

それともう一つは、是非、2020年(今年)のオリンピックの見どころ、フェンシングの楽しみ方などを教えていただければと思います。

(千田) はい、ありがとうございます。色々質問を頂いてありがとうございます。

フェンシングは、1対1で戦うスポーツなんですけれども、最後にジャッジするのはやはり審判なんですね。その審判の見方によって、どういうふうに解釈するかというところで、どちらにも勝ちにできるような感じは結構あるんですね。どちらにも勝ちにできるような見え方でしたので、そのイタリアの選手は審判と積極的にコミュニケーションを取ろうとして、審判を結構引き込むように、このようにマスクを取ったりするのですけれども、マスクを取ると基本的にイエローカードで反則なんです。けれども、そのぎりぎりのラインをイタリアの選手は攻めてくるというか。イタリアも世界ランキング1位の国なので、そういう自分たちのプライドというか、誇りを持って、中々反則にできないようなタイミングで、うまくすれすれのところを審判と駆け引きをしていくところは、やはりすごいなというのは思いますね。

そういうところは、日本の選手も国際的なところで、コミュニケーション能力を高めていかなければいけないというところは、勉強になりますね。

あとは、今年の2020年の見どころですが、今までは、フェンシングの3種目の中でフルーレが重点的に強化されてきたのですが、その他にもエペやサーブルについて、2020年に向かってかなり予算が増えて、3種目ともかなり強化されてきているのです。ですので、今はフルーレが強いのですが、さらにエペという種目が強くなって、メダルが取れるだろうというのが期待されていますね。特にエペの男子の種目は、とても今強いです。

その他には、多くの方にフェンシング競技を見てほしいのですが、やはり今、色々な所に行かせてもらう時にも、色々な方に、被災地、特に復興オリンピックという目線でも見

ていただきたいし、海外の人とも色々なコンタクトを取る機会もあるので、是非、東北、東日本の方にも向いてほしいとすごく思っています。

最後に私事ですけれど、私の父は、実はフェンシングのモスクワオリンピックの代表だったんですね。モスクワ大会は日本が参加せず、結局オリンピックの試合には出られずに終わってしまいました。父が何かオリンピックに関わりたいと聖火ランナーに応募したら、聖火ランナーに当選して、今年の夏に気仙沼で聖火ランナーとして走ります。ですので、私は、個人的に見に行こうと思っています。

(司会) いいですね。本当にどうもありがとうございました。

免許状更新講習は我々推進室員も含めて「学び続ける」がキャッチフレーズというかモットーなのですが、千田先生のお話から「学び続ける」という勇気をたくさんいただいたような気がしています。

本当に今日はどうもお忙しい中、ありがとうございました。(拍手)

## 令和元年度 筑波大学教員免許状更新講習シンポジウムに関するアンケート

本日は、シンポジウムにご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。  
本シンポジウムの検証のため、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。また、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。 ※ お帰りの際、回収箱へ入れてください。

1. 現在、学校に勤務されている方は、当てはまる番号に○を付けてください。  
なお、当てはまる学校種がない場合や現在、学校に勤務されていない方は「その他」に○を付けてください。

学校種	①保育所(園)・幼稚園、②小学校、③中学校、④高等学校、⑤特別支援学校、⑥その他( )
職 種	①教諭、②講師、③養護教諭、④栄養教諭、⑤その他( )

2. あなたがお住まいの地区や都道府県名をご記入ください。また、年齢に当てはまる番号に○を付けてください。

茨城県内の方 (該当地区に○)	①水戸、②県北、③鹿行、④県南、⑤県西	茨城県以外の方 都道府県名	
年齢区分	①50代、②40代、③30代、④その他		

3. あなたは、来年度の更新講習の受講を予定していますか。  
当てはまる番号に○を付けてください。

①予定している、②予定していない
------------------

4. シンポジウムの開催を何で知りましたか、当てはまる番号に○を付けてください。

①学校に届いた案内、②筑波大学のホームページ、③その他( )
--------------------------------

5. 本日のシンポジウム全体の満足度について、当てはまる番号に○を付けてください。

①とても満足、②満足、③やや不満、④不満
----------------------

6. 次年度シンポジウムの講演で聞いてみたい内容がございましたら、お書きください。

--

7. 本日の講演はいかがでしたか。当てはまる番号に○を付けてください。

①とても満足、②満足、③やや不満、④不満
----------------------

8. 本日のパネルディスカッションはいかがでしたか。当てはまる番号に○を付けてください。

①とても満足、②満足、③やや不満、④不満
----------------------

9. 学び続ける教師にとって更新講習は有効であると思いますか。当てはまる番号に○を付けてください。

①非常に有効である、②有効である、③どちらかと言えば有効でない、④全く有効でない
--

10. あなたは「新しい時代の教師に求められること」で大切なことは何だと思いますか。簡単にお書きください。

--

11. あなたが受講したいと思う講習内容があればお書きください。(来年度の予定一覧にない内容でも結構です。)

--

12. シンポジウムに参加してのご意見、ご感想を自由にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。お気を付けてお帰りください。

○自己紹介及び筑波大学の更新講習を受講しての感想

つくば市立吾妻小学校に勤務しております柳橋 茜と申します。私の経験が少しでも参考になればうれしく思います。よろしくお願い致します。

《筑波大学で受講した理由》

免許講習を受けるにあたり今まで免許講習を行った先生方に話を聞き情報を集めました。今回は日程が合わずに受講することができませんでしたが、筑波大付属小で実践演習ができるなど自分の興味がある講習が多かった点、自宅から近かった点から筑波大で受講することにしました。

《講習の選び方》

- ・必修講習は、「教育の最新事情」です。講習の内容は同じだったので、都合のよい日を選択しました。
- ・選択必修は、「すぐに役立つ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを身につけよう」を選択しました。人間関係づくりのためのグループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングについて、講義だけでなく演習があるところに魅力を感じました。
- ・選択講習は、「特別なニーズのある子どもの理解と支援」で発達障害について最近の動向を詳しく知りたいと思い選択しました。また、英語の授業に不安があるため授業の組み立て方をしっかり学びたいと思い「まだまだ伸ばせるあなたの英語力～小学校英語の授業に挑む教師のための簡単英語で楽しむ講習」を選択しました。もう一つは「楽しく学べるやさしい天気予報活用術」を選択しました。自分の専門とは違いますが、天気について興味があったのと、普段の生活に生かせそうだと思い選択しました。

《必修と選択を受講しての感想》

必修は4つのテーマについて4人の先生方に講義していただきました。川口先生は、日本の子どもたちの学力や教員の仕事は世界から見たらどうなのか、講義してくださいました。いつもとは違う視点で教育について考えることができたので、とても楽しく話を聞くことができました。相川先生の講義では、家庭が心の居場所でなくなり、学級が心の居場所にならざるを得ないという話にハッとさせられました。子どもたちにとって居心地のよい学級にするためにはどうすればよいのか改めて考える機会になりました。野呂先生の講義では、神経発達障害を中心に話していただきました。発達障害のある子どもたちへの配慮が他の子どもたちにも役に立つということで、発達障害について深く知る必要性を実感しました。舘先生の講義では、社会の多様化、



格差化の中で教員としてどうあるべきか話していただきました。どの先生のお話も実際の教育現場をふまえたものだったので興味をもって聞くことができました。

選択必修では、グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを他の受講者の方と一緒に、楽しく参加することができました。演習が多く、最初は知らない人とやるのは少し躊躇しましたが、同じ目標をもった集団なのでいろいろ相談もでき、実りのある講義でした。

選択講習の「特別なニーズのある子どもの理解と支援」では、発達障害について詳しく教えていただきました。通常学校での具体的な支援の仕方、ユニバーサルデザインの授業の視点など興味がある話がたくさん聞けてこれからの指導に生かしていきたいと思いました。二つ目の選択講習の「まだまだ伸ばせるあなたの英語力～小学校英語の授業に挑む教師のための簡単英語で楽しむ講習」では、英語の授業は単語や簡単な英語で進められること、英語が苦手でも間違ってもいいから教師自身が楽しんで英語を話す大切さについて繰り返しおっしゃっていたのが印象的でした。三つ目の「楽しく学べるやさしい天気予報活用術」では、天気図を見てどんな天気だったかななどを予想するのはとても難しかったです。しかし空を見たり、風の向きを気にしたりするなど天気を身近なものとして考えることができました。最後には東日本大震災後の復興の様子を写真で見せていただきました。町が復興していく様子を見ると月日が経ったことを実感すると共に、震災を忘れてはいけなと強く思いました。震災後に生まれた子どもが小学生になっていますが、震災のことを伝えていく必要性を感じました。

#### 《講習の現状と課題》

多くの講習があつてどれも魅力的でした。ただ受講したいと思った講座がいくつか重複していたため1つに絞るのが大変でした。選択できる日程がたくさんあるとありがたいと感じました。また、筑波キャンパスで受講できる講座のほとんどが6、7月だったので夏休み中の8月も開講していただけると余裕をもって受講できると思いました。

#### 《受講予定の方へ等》

普段の出張や研修では、同じ校種の先生方としか交流する機会がありませんがこの講習では、様々な校種や年代の先生方と交流し、話を聞くことで見聞を広めることができました。また、今回の講習では1つの話題についてじっくり話を聞くことができ、よく考えることができました。受講する前は、1日講習は長いと思っていましたが、どの講習も今の自分にとって必要なものだったので飽きることなくあっという間に過ぎてしまいました。学校現場に戻っても実際に生かせるものが多く充実した講習でした。

○自己紹介及び筑波大学の更新講習を受講しての感想

つくば市立秀峰筑波義務教育学校の 加瀬雄一 と申します。私の体験談が、少しでも皆様の参考になればと思います。よろしくお願い致します。

《筑波大学で受講した理由》

それは、ずばり筑波大学だからです。前身が東京教育大学であること、現在も教職教育に力を入れており、最近では小学校免許も取れるなど授業や講座が充実していること、内地留学の際に参加させていただいた授業が大変興味深いものであったことなど、理由はたくさんあります。また、本校では教育実習で筑波大学の学生を受け入れています。実習に来る学生たちは知識も豊富で、児童生徒への対応もきめ細かく対応力があります。そこで、今の学生たちが普段からどのような学びをしているのかという興味もありました。最後になりますが、実は放送大学やeラーニングという選択肢も頭をよぎりました。しかし、筑波大学であれば、より多くの現場の先生方とも直接関わりあえるというライブ感に魅力を感じ、筑波大学を選択しました。

《講習の選び方》

必修講習は、「教育の最新事情」（子どもの生活の変化を踏まえた課題：外山美紀）（子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見：宇野彰）（国の教育政策や政界の教育の動向：川口純）（教員としての子ども観、教育観等についての省察：小山浩）を受講しました。必修講習の内容は必修であることにふさわしく、現職の教員にとって必須の内容と感じられました。講義の構成は、多面的かつ多角的であり教師としての見識を大きく広げてくれるものでした。

外山教授は心理学的見地からの褒め言葉の功罪について、宇野教授は自閉症スペクトラム障害の最新の定義とよくある間違った理解について、川口教授からは、世界的に現在求められる学力の定義や教育と日本の教育政策について、小山教授からは「教員としての子供観、教育観」を中心に講義をしていただき、子供を変えるための風車理論がとても印象に残っています。

選択必修は、「学校を巡る近年の状況の変化」（樋口直宏・徳永智子）を受講しました。本校は義務教育学校として開校2年目の学校です。樋口先生は小中一貫教育を専門とされていらっしゃる先生で、本校の取組を進めるにあたりこれまでも御指導やご助言をいただいてきました。その樋口先生の講義を受けることができるというのも魅力でした。

選択講習は、「心の教育からの脱却と道徳教育」（吉田武男）「学校トラブルへの法的対処（中学校・高等学校編）」（星野豊）を受講しました。今まで知らなかったことを知る喜びや他者と協働で活動する楽しさを味わうことができました。やはり、新たな知見を学ぶということが大切であること、正しい理論に基づいて現場で児童生徒に接することの必要性を実感しました。具体的にどんな話なのかと気になった方は、来年度、是非受講してください。

実践演習は、「附属中学校実践演習」を選択しました。東京都文京区にある附属中学校では、講話を聞き、授業を参観し、授業者とも授業について語る協議の場が設けられ、双方向的な意見交換ができたのは良かったと思います。演習ですので、受講者が受け身で終わ

ることなく、主体的に臨めるように配慮されておりました。授業に対する新たな発見もあり、自分自身のこれまでの授業への価値観が変わる体験（パラダイムシフト）もできました。また、偶然にも初任者研修で共に学んだ仲間と再会し、お互いに近況報告できたことも大変有意義でした。

#### 《必修と選択を受講しての感想》

教員免許更新講習の2回目が始まった以上、これから先の10年も教員として生きていく上で、最低限知っておくべきことと自分の興味関心や専門性・自分自身に役立つこと、この2つをバランスよく学ぶことが大切だと思っています。必修と選択を、両輪として学べることは大変良い機会です。

ただし、2つの注意点があると考えています。それは、新学習指導要領が求めているように、学習者が「主体的」であることと講義内容を「どのように現場に生かせるかを考えながら学ぶこと」だと思います。「我々の「学びに向かう力」が試されている！」と自分自身を鼓舞しながら、受講も試験も頑張りました。

#### 《講習の現状と課題》

講習の申込方法にはまだ多少の課題があると思われます。ネットを用いた申込ができるようになったおかげで、昔に比べて便利になりました。しかし、他者の協力体制や学校の理解が得られないと申込開始時刻に申込ができません。申込開始時刻が勤務時間内であることも踏まえると個人のPCやスマホや携帯から勤務時間内に申込を行ってよいのかという疑問も残ります。

#### 《受講予定の方へ等》

「主体的で対話的な深い学び」が今回の学習指導要領改訂で言われているところですが、先生方自身が主体的な学び手として臨む、いい機会であると発想の転換で考えてみてはどうでしょうか。「忙しいのに…」「部活の指導をしたいのに…」など、貴重な休日を学習に費やすことにネガティブな反応も当然あると思います。しかし、10年に一度の自分自身をブラッシュアップできる機会です。10年はあっという間でもあり、長い時間でもあります。10年前に仕入れたネタでは、そろそろ賞味期限切れ感も否めないと感じます。10年前と今では教育界の状況も変わっています。普段は忙しくて参加できずに見送っている研修会や学習会もあると思います。しかし、「免許更新講習」は大手を振って学校を離れ、新たな知見を取り入れることができる絶好の機会です。貴重な学びの機会を有意義に過ごしてほしいと思います。

#### ＜筑波大学の特色について＞

- ・総合大学として幅広い範囲の講習が用意され、講師も充実している。
- ・附属校の実習では、講義と授業参観、研究協議に参加することができ、より実践的な学びに繋がる。そして、明日から現場で使いたくなる。

#### ＜教員の資質能力の向上につながる更新講習のあり方＞

- ・教員免許講習2回目を体験し、1回目よりも講習の進め方がより良い方向へと変化していた点。（持ち込み可能に。選択課題によるテスト。「対話的な学び」を実体験できる交流の場。豊富な資料。会場の丁寧な案内表示。）
- ・異年齢や学校種が異なる教員による交流が充実していた。今後も継続を。
- ・勤務では学ぶことができないことを、学べる場の設定があるとよい。
- ・社会の変化に教員も対応していけるよう内容を（いじめ、クレーム対応等）盛り込んでいただけると幸いです。

## ○自己紹介及び筑波大学の更新講習を受講しての感想

茨城県立つくば特別支援学校に勤務しております杉本クニ子と申します。私の経験が少しでも参考になればうれしく思います。よろしくお願いします。

### 《筑波大学を受講した理由》

免許更新講習を受講するにあたり、重視した点は講習内容と会場でした。更新講習を開講している機関（eラーニング等も含む）をいろいろ比較検討したところ、豊富な講習が開講されていて、自分の興味とニーズが合うものを選択でき自宅から最も近い距離にあった筑波大学で受講することにしました。

実は、筑波大学で免許更新講習を受講するのは2度目で、1度目は10年前になりますが、経験しているということから、手続きや受講スタイルにも見通しがもて不安に思うことも少なく、もちろん講習内容への信頼と安心感というのもあり、もう一度筑波大学でという思いになりました。

### 《講習の選び方》

多様な講習の中から、関心があり改めて学びたいと思うものや担当している授業やクラス運営等、実践に生かせるようなものを選び、以下を受講しました。

- ・必修講習 「教育の最新事情」
- ・選択必修 「いじめ・不登校の理解と対応」

必修・選択必修については、日々変化する教育の最新を学び自分自身の教員として知識・技能の刷新を図りたいという思いで選択受講しました。

- ・選択講習

「特別なニーズのある子どもの理解と支援」

特別支援教育については、日々向き合っているので基本的な講習内容には心惹かれるものがなかったのですが、グループ討議において他校種の受講者との交流ができ、特別なニーズのある子の現状や支援方法等について情報を得ることができるということに魅力を感じ受講しました。

「体づくり運動の教材づくり」

私自身が体育を得意でないため、この機会に学びたいと考え受講しました。

「附属大塚特別支援学校実践演習」

実際に授業が参観できる講習は、他大学ではほとんどないのでとても魅力的な講習だと思いました。

### 《必修と選択を受講しての感想》

教員免許状更新の2回目となる今回の受講でしたがやはり当初は義務感、マイナスイメージをもってのスタートでした。ですが、講習後振り返ってみると受講した講座はどれも有意義なもので今後の教育実践で生かしていきたいと思えるものをたくさん学ぶことができました。

必修科目では、教育の最新を知るとともに教師としての振り返り時間もいただき自分自

身の教育観や児童観等を刷新することができました。前回の受講経験から必修科目は、全校種向けの内容なので内容が浅いというイメージがあったのですが、選択必修が設定されており、自分の希望に合った内容の講習を受講することができました。また、経験から長い時間座学をひたすら聞くというイメージもあったのですが、今回は講座を複数の講師の先生が担当してくださっていて集中して学ぶことができました。人によっては、もっとじっくり学びたいという方もいらっしゃると思いますが、私には、飽きずに学べる授業構成でした。

選択科目では、現場で役立つ、より実践的な内容で自身の教師力の向上につなげることができました。模擬事例を通してのグループ討議では、他校種の先生方と意見や情報交換の場をもつことができ大変勉強になりました。長く教員をやっていると慣れや校種の常識に染まってしまうので他校種の先生方との交流は新鮮で貴重な機会となりました。また、苦手な分野で選択する際に躊躇した体育の講習では、体育の学びはもちろん学生の立場で参加した実技を通して運動の楽しさ、学びの側の気持ちを改めて知ることができました。「教える人が学ぶ人」「学ぶ人が教える人」を体験し、教員としての学びについて考えるよい機会となりました。不得意だからこそこの機会にと選んだ結果、大変有意義な時間となりました。付属学校での演習では、実際に授業を参観し、具体的な支援・指導方法を学ぶことができました。講習後、自身の日々の授業で活用させていただいたものもあり、まさに実践的学びでした。

#### 《講習の現状と課題》

様々な関係で土日開催になっていると思うのですが、できれば夏季休業中の平日開催の講座を増やしてほしいと思います。休日返上での受講は負担に感じました。気持ちや時間にゆとりのある時に受講ができるとアクティブに学べることだと思います。

今回受講した講座はどれも有意義なものでしたが、実は、選択講習については第一希望のものではありませんでした。要領の悪い私は当然のように必修科目から申し込み手続きを開始しました。当然、定員数の少ない選択科目の手続きのころには希望の科目はすでに定員に達しており、第2第3希望のものへと変更せざるを得ませんでした。しかも必修と選択科目の開校日が重なり、泣く泣く受講できないものも多々ありました。せっかく受講するのなら希望のものがという気持ちはあるものの、一刻も早く更新を済ませたいという気持ちも受講生の本音のような気がします。希望の多かった講習については定員数や講習日の増等、現行の早いもの勝ち的なシステムを検討していただけるとありがたいと思います。

#### 《受講予定の方へ等》

受講生の本音としては、時間と受講料をかけて「忙しいのに・・・」「面倒だな」という不満や疑問のマイナスな気持ちがやはり大きいと思います。それでも受講後には得るものがたくさんあります。せっかくの機会なので、アクティブに学び教師としての幅を広げてください。最後に、昨今、e ランニングや通信で更新講習に参加する率も高くなっていると聞きます。現に私の同僚にもそういったスタイルで今回の更新を行った方が何人もいます。ですが、講習を終え個人的には思うことは、講習はネットやパソコンで受けるより、講師の先生と **Face to Face** で校種の違う受講参加者同士で交流できる、そういうスタイルのものがやっぱりよいなと感じました。

令和元年度筑波大学教員免許状更新講習シンポジウム



# 「学び続ける教師のための 教員免許状更新講習」



2020年  
**2月15日**  **13:00-16:30** (受付 12:30～)

筑波大学 3 A棟202教室 (茨城県つくば市天王台1-1-1)  
後援：茨城県教育委員会

**第一部**

13:10～14:20 (13:00～13:10は開会行事を行います。)

**講演：「オリンピックの舞台裏  
～3大会のオリンピックチャレンジを通して～」**

講師  **千田 健太 氏**

講師プロフィール：千田 健太（日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンス戦略部戦略課 専門スタッフ  
日本フェンシング協会理事 JOCアスリート委員）  
中学1年でフェンシングを始め、高校3年生でインターハイ個人3位、中央大学在学中の2008年に北京五輪出場、  
卒業後の2012年ロンドン五輪では男子フルーレ団体で銀メダルを獲得し、文部大臣顕彰はじめ河北文化賞、  
気仙沼市民栄誉賞等を受賞。2016年12月に現役選手を引退。引退後の2017年3月に筑波大学大学院修士課程  
を修了。日本フェンシング協会の理事を歴任し、現在は、オリンピックとしてフェンシングの競技解説、指導、  
普及活動をしながら、JOCアスリート委員として、国内外においてスポーツの価値を発信する活動を行っている。

**第二部**

14:35～15:55

**パネルディスカッション**

本学教員と受講者により今年度の更新講習を振り返ります。

**第三部**

16:10～16:30

**令和2年度教員免許状更新講習の概要説明**

令和2年度筑波大学教員免許状更新講習開設予定一覧等の説明を行います。

**参加費 無料**

お申込み・お問い合わせ 筑波大学教員免許状更新講習推進室

※当日申込みや第1部～第3部までの  
内の一部のみの参加も可能です。

**TEL: 029-853-8037**  
Email: koushin@un.tsukuba.ac.jp



筑波大学の教員免許状更新講習は、学び続ける先生方を応援するために、必修講習Aと選択必修講習a、選択講習B・C・Dを組み合わせた「筑波カリキュラム」の充実を目指しております。今年度も皆様のご理解をいただき、約4,500名の方に受講していただきました。筑波大学の講習は、対面式であり、担当講師や受講者同士の情報交換ができることや附属学校の授業参観をもとに講習が受けられる実践演習があります。受講者の評価結果をもとに評価と改善を行い、受講者のニーズに合った講習の企画・運営に努めております。

今回のシンポジウムでは、ロンドン五輪の男子フルーレ団体で銀メダルを獲得され、筑波大学大学院修士課程を修了された千田健太氏の講演、筑波大学教員と受講者代表を交えたパネルディスカッション、令和2年度の教員免許状更新講習の概要説明を行います。「学び続ける教師」の重要性が高まる中、学ぶ楽しさを教師も感じられるような教員免許状更新講習の在り方について、皆様と共に考えていきたいと思っております。

筑波大学で教員免許状更新講習を受講したいと思っている方を始め、多くの皆様の参加をお待ちしております。

## 会場案内

駐車場は、「第三エリア駐車場」(開放)になります。

会場は、第三エリア「3A棟、2階202教室」になります。

### 自動車でお越しの方

- ・「第三エリア駐車場」をご利用ください。シンポジウム開催日のみゲートを開放しております。

### バスでお越しの方

- ・「第三エリア前」バス停でお降りください。

※交通案内の詳細は、筑波大学HP→アクセスマップ→「交通アクセス」でご確認いただけます。

## 筑波大学教員免許状更新講習シンポジウム参加申込書

FAX 029-853-8847

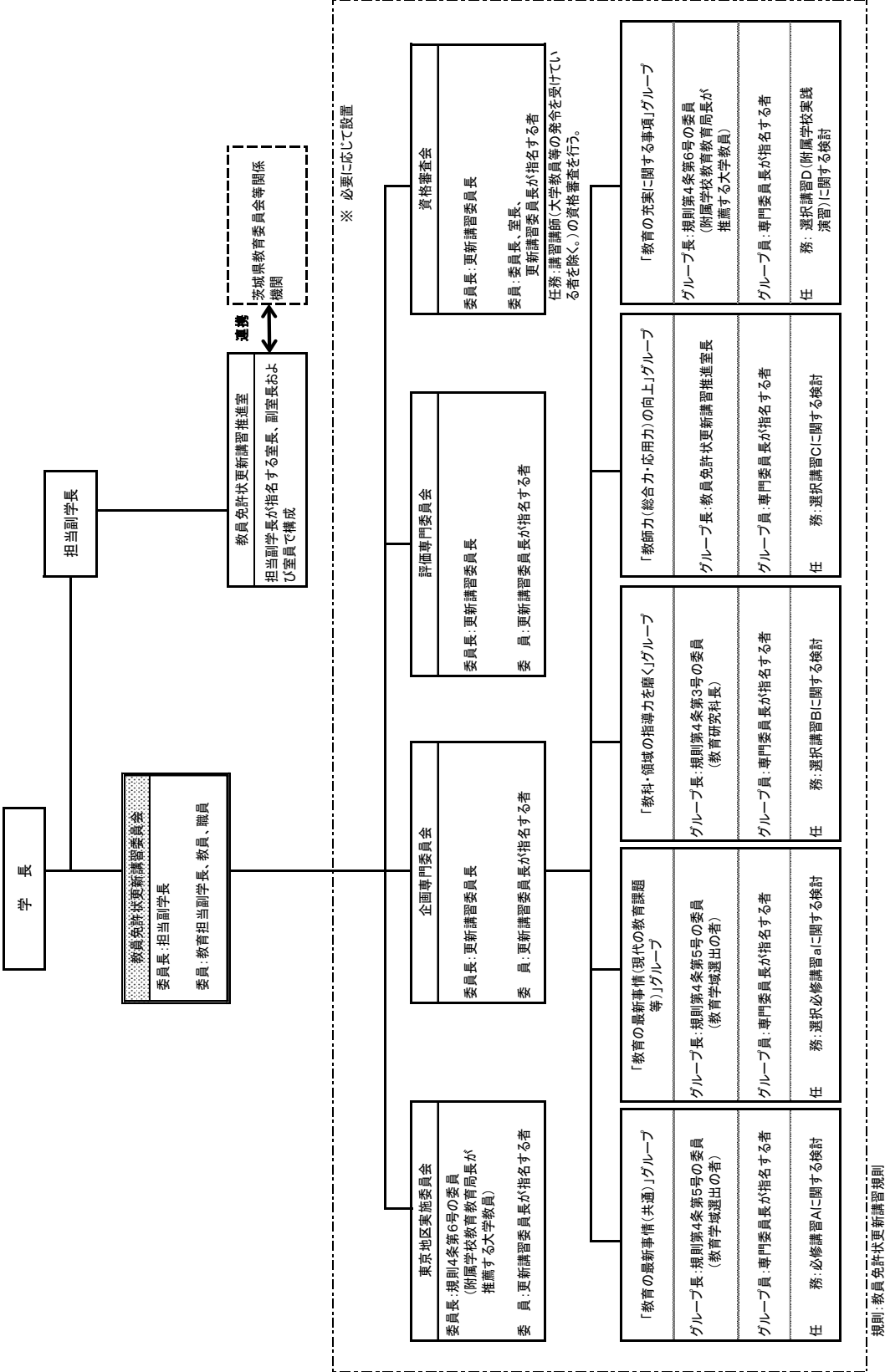
所属

参加者氏名（連名可）

シンポジウムで配慮等を希望される方や、ご質問のある方は、こちらへ具体的にお書きください。

※ お申込みはFAX(本票のみを送信)、E-mail (必要事項記載)及び 電話で 随時受付中です。  
(当日申込みや第1部～第3部までの内の一部のみの参加も可能です。)

筑波大学教員免許状更新講習実施体制





# 令和元年度 申込状況，講習別受理状況，都道府県別状況

令和元年度 教員免許状更新講習申込状況一覧

区分	開催時期	定員 (人)	受講申込者数 (人)	受講決定者 (受理)数 (人)	欠席者数 (人)	受講者数 (人)	受講率 %
必修 A	第 1 回	250	239	239	1	238	96%
	第 2 回	500	347	347	2	345	69%
	第 3 回	250	240	240	2	238	96%
	小計	1,000	826	826	5	821	83%
選択必修a	第 1 回	150	102	102	0	102	68%
	第 2 回	650	459	459	4	455	71%
	第 3 回	390	277	277	2	275	71%
	小計	1,190	838	838	6	832	70%
選択 B	第 1 回	155	140	140	0	140	90%
	第 2 回	710	466	466	0	466	66%
	第 3 回	402	339	339	0	339	84%
	小計	1,267	945	945	0	945	75%
選択 C	第 1 回	400	208	208	1	207	52%
	第 2 回	1,406	796	796	3	793	57%
	第 3 回	793	478	478	3	475	60%
	小計	2,599	1,482	1,482	7	1,475	57%
選択 D	第 1 回	271	170	170	2	168	63%
	第 2 回	40	38	38	0	38	95%
	第 3 回	130	120	120	1	119	92%
	第 4 回	141	96	96	3	93	98%
	小計	582	424	424	6	418	73%
内訳	第 1 回	1,226	859	859	4	855	70%
	第 2 回	3,306	2,106	2,106	9	2,097	64%
	第 3 回	1,965	1,454	1,454	8	1,446	74%
	第 4 回	141	96	96	3	93	68%
合計		6,638	4,515	4,515	24	4,491	68%

理療科 32人

講習総計 4,523人

# 各講習区分の日計

申込日	必修A	選択必修a	選択B	選択C	選択D	申込数	累計	申込日	必修A	選択必修a	選択B	選択C	選択D	申込数	累計
3月26日(火)	530	496	571	851	199	2647	2647	5月14日(火)	0	0	2	1	1	4	4357
3月27日(水)	30	37	41	62	29	199	2846	5月15日(水)	1	0	3	5	2	11	4368
3月28日(木)	36	33	35	45	13	162	3008	5月16日(木)	0	1	0	1	1	3	4371
3月29日(金)	19	15	25	36	12	107	3115	5月17日(金)	1	1	1	1	0	4	4375
3月30日(土)	17	14	18	20	12	81	3196	5月18日(土)	0	5	2	11	2	20	4395
3月31日(日)	13	18	22	27	8	88	3284	5月19日(日)	0	1	0	5	0	6	4401
4月1日(月)	19	17	15	32	9	92	3376	5月20日(月)	0	1	1	1	1	4	4405
4月2日(火)	22	18	20	39	9	108	3484	5月21日(火)	0	5	2	5	2	14	4419
4月3日(水)	14	11	13	20	5	63	3547	5月22日(水)	0	0	2	3	1	6	4425
4月4日(木)	14	13	14	20	5	66	3613	5月23日(木)	0	0	0	1	0	1	4426
4月5日(金)	6	5	8	14	6	39	3652	5月24日(金)	0	1	0	3	1	5	4431
4月6日(土)	9	6	9	8	7	39	3691	5月25日(土)	0	0	1	0	0	1	4432
4月7日(日)	11	7	12	14	3	47	3738	5月26日(日)	0	2	0	1	2	5	4437
4月8日(月)	8	10	7	7	5	37	3775	5月27日(月)	3	2	4	5	0	14	4451
4月9日(火)	9	7	10	6	2	34	3809	5月28日(火)	0	1	0	1	0	2	4453
4月10日(水)	3	7	9	13	2	34	3843	5月29日(水)	0	1	0	0	1	2	4455
4月11日(木)	6	5	11	12	0	34	3877	5月30日(木)	1	2	4	4	1	12	4467
4月12日(金)	4	7	5	20	1	37	3914	5月31日(金)	1	3	2	5	1	12	4479
4月13日(土)	3	5	6	14	3	31	3945	6月1日(土)	0	0	0	0	0	0	4479
4月14日(日)	5	8	7	11	2	33	3978	6月2日(日)	0	0	0	0	0	0	4479
4月15日(月)	10	7	11	13	5	46	4024	6月3日(月)	0	0	0	0	0	0	4479
4月16日(火)	4	5	4	18	2	33	4057	6月4日(火)	0	0	0	0	3	3	4482
4月17日(水)	7	12	15	14	6	54	4111	6月5日(水)	0	0	0	0	0	0	4482
4月18日(木)	10	14	9	36	5	74	4185	6月6日(木)	0	0	0	0	0	0	4482
4月19日(金)	4	7	6	11	0	28	4213	6月7日(金)	0	0	0	0	0	0	4482
4月20日(土)	1	1	0	3	0	5	4218	6月8日(土)	0	0	0	0	0	0	4482
4月21日(日)	0	2	0	2	1	5	4223	6月9日(日)	0	0	0	0	0	0	4482
4月22日(月)	1	2	1	5	3	12	4235	6月10日(月)	0	0	0	0	1	1	4483
4月23日(火)	1	1	3	6	2	13	4248	6月11日(火)	0	0	0	0	1	1	4484
4月24日(水)	0	3	0	2	1	6	4254	6月12日(水)	0	0	0	0	0	0	4484
4月25日(木)	0	0	0	3	1	4	4258	6月13日(木)	0	0	0	0	0	0	4484
4月26日(金)	0	1	0	2	2	5	4263	6月14日(金)	0	0	0	0	0	0	4484
4月27日(土)	0	3	2	5	4	14	4277	6月15日(土)	0	0	0	0	0	0	4484
4月28日(日)	0	1	0	0	0	1	4278	6月16日(日)	0	0	0	0	2	2	4486
4月29日(月)	0	3	0	0	1	4	4282	6月17日(月)	0	0	0	0	3	3	4489
4月30日(火)	0	0	0	1	0	1	4283	6月18日(火)	0	0	0	0	1	1	4490
5月1日(水)	0	0	2	2	0	4	4287	6月19日(水)	0	0	0	0	2	2	4492
5月2日(木)	0	1	1	2	0	4	4291	6月20日(木)	0	0	0	0	4	4	4496
5月3日(金)	0	1	0	2	2	5	4296	6月21日(金)	0	0	0	0	1	1	4497
5月4日(土)	1	0	0	4	1	6	4302	6月22日(土)	0	0	0	0	0	0	4497
5月5日(日)	0	0	2	2	0	4	4306	6月23日(日)	0	0	0	0	4	4	4501
5月6日(月)	0	0	0	1	0	1	4307	6月24日(月)	0	0	0	0	0	0	4501
5月7日(火)	0	1	1	4	0	6	4313	6月25日(火)	0	0	0	0	0	0	4501
5月8日(水)	0	1	2	2	1	6	4319	6月26日(水)	1	0	1	0	0	2	4503
5月9日(木)	0	2	0	1	0	3	4322	6月27日(木)	0	0	0	0	0	0	4503
5月10日(金)	0	3	0	5	0	8	4330	6月28日(金)	0	0	0	0	0	0	4503
5月11日(土)	0	0	0	1	0	1	4331	6月29日(土)	0	0	0	0	0	0	4503
5月12日(日)	0	1	2	6	3	12	4343	6月30日(日)	0	0	0	0	0	0	4503
5月13日(月)	1	1	1	4	3	10	4353	申込総数	必修A	選択必修a	選択B	選択C	選択D	申込数	
									826	838	945	1481	413	4503	

# 令和元年度受講者履修パターン

受講時間	実人数	受講パターン									
6時間	361人	A	a	B	C	D					
		37	53	77	124	70					
12時間	270人	Aa	AB	AC	AD	aB	aC	aD	BB	BC	
		51	22	17	0	18	28	4	11	41	
		BD	CC	CD	DD						
		20	34	15	9						
18時間	177人	AaB	AaC	AaD	ABB	ABC	ABD	ACC	ACD	aBB	
		23	28	4	4	4	6	12	1	4	
		aBC	aBD	aCC	aCD	aDD	BBB	BBC	BBD	BCC	
		8	1	7	4	1	0	7	6	14	
		BCD	BDD	CCC	CCD	CDD	DDD				
		15	0	16	5	6	1				
24時間	84人	ABBB	ABBC	ABCC	ABCD	ACCC	ADDD	AaBB	AaBC	AaBD	
		1	5	4	7	2	0	6	21	5	
		AaCC	AaCD	aBBC	aBBD	aBCC	aBCD	aBDD	aCCC	aCCD	
		16	7	0	0	3	2	0	4	1	
30時間	531人	AaBBB	AaBBC	AaBBD	AaBCC	AaBCD	AaBDD	AaCCC	AaCCD	AaDDD	
		15	91	12	182	115	9	93	12	1	

# 令和元年度 教員免許状更新講習区分別受講状況

## 必修A受講者受理状況

講習区分	開設地区	科目コード	科目名	開講日	定員	受講申込者数	受講決定者(受理)数	欠席者数	受講者数	受講率 受理数/定員
必修A	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10001	【必修】教育の最新事情1	令和元年6月22日	250	239	239	1	238	96%
必修A	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10002	【必修】教育の最新事情2	令和元年7月27日	250	237	237	0	237	95%
必修A	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10003	【必修】教育の最新事情3	令和元年7月27日	250	110	110	2	108	44%
必修A	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10004	【必修】教育の最新事情4	令和元年8月20日	250	240	240	2	238	96%

## 選択必修a受講者受理状況

講習区分	開設地区	科目コード	科目名	開講日	定員	受講申込者数	受講決定者(受理)数	欠席者数	受講者数	受講率 受理数/定員
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10005	【選択必修】学習指導要領の変遷と学校教育をめぐる今日的課題	令和元年6月23日	100	81	81	0	81	81%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10006	【選択必修】「教育法規と教育政策」及び「学校における危機管理上の課題」	令和元年6月23日	50	21	21	0	21	42%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10007	【選択必修】国際バカロレア教育と日本の教育課題	令和元年7月6日	40	36	36	0	36	90%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10008	【選択必修】次期学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方	令和元年7月6日	50	14	14	0	14	28%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10009	【選択必修】開かれた学校	令和元年7月6日	40	38	38	1	37	95%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10010	【選択必修】道德教育の最新動向―「考える道德」・「議論する道德」へ―	令和元年7月6日	50	49	49	0	49	98%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10011	【選択必修】学校を巡る近年の状況の変化	令和元年7月7日	50	48	48	0	48	96%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10012	【選択必修】すぐに役立つ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを身につけよう	令和元年7月7日	40	39	39	0	39	98%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10013	【選択必修】アクティブ・ラーニングの理論と方法―主体的・対話的で深い学びを目指して―	令和元年7月20日	40	37	37	1	36	93%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10014	【選択必修】いじめ・不登校の理解と対応	令和元年7月20日	80	77	77	0	77	96%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10015	【選択必修】カリキュラム評価からみたカリキュラム・マネジメント	令和元年7月20日	40	0	0	0	0	0%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10016	【選択必修】開かれた学校	令和元年7月20日	40	29	29	0	29	73%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10017	【選択必修】学校を巡る近年の状況の変化	令和元年7月21日	50	12	12	0	12	24%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10018	【選択必修】グローバル時代の教育課題	令和元年7月21日	50	32	32	1	31	64%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10019	【選択必修】コミュニケーション能力の定義をもとにした英語教育の基本的認識と指導方法概論	令和元年7月21日	40	8	8	0	8	20%
選択必修a	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10020	【選択必修】すぐに役立つ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを身につけよう	令和元年7月21日	40	40	40	1	39	100%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10021	【選択必修】次期学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方	令和元年8月21日	50	18	18	1	17	36%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10022	【選択必修】新学習指導要領に基づく小学校英語教育の理論と実践	令和元年8月21日	50	29	29	0	29	58%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10023	【選択必修】学習指導要領の変遷と学校教育をめぐる今日的課題	令和元年8月21日	50	47	47	0	47	94%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10024	【選択必修】「教育法規と教育政策」及び「学校における危機管理上の課題」	令和元年8月22日	50	20	20	0	20	40%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10025	【選択必修】進路と教育	令和元年8月22日	40	35	35	0	35	88%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10026	【選択必修】カリキュラム・マネジメント	令和元年8月22日	40	20	20	0	20	50%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10027	【選択必修】アクティブ・ラーニングの理論と方法―主体的・対話的で深い学びを目指して―	令和元年8月23日	40	39	39	1	38	98%
選択必修a	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10028	【選択必修】学校で苦戦する子どもの援助～チーム学校の視点から	令和元年8月23日	70	69	69	0	69	99%

## 選択B受講者受理状況

講習区分	開設地区	科目コード	科目名	開講日	定員	受講申込者数	受講決定者(受理)数	欠席者数	受講者数	受講率 受理数/定員
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10029	【選択】 特別なニーズのある子どもの理解と支援	令和元年6月23日	50	48	48	0	48	96%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10030	【選択】 理科好きな子どもを育てる授業	令和元年6月23日	40	39	39	0	39	98%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10031	【選択】 国語科における教育課程の動向と対話活動の充実	令和元年6月23日	40	36	36	0	36	90%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10032	【選択】 社会科(地理歴史科)のための地理情報システム(GIS)の活用	令和元年6月23日	25	17	17	0	17	68%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10033	【選択】 図画工作・美術教育を複眼的に考える	令和元年7月6日	30	28	28	0	28	93%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10034	【選択】 英語教師の自己教育力ブラッシュアップ	令和元年7月6日	40	15	15	0	15	38%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10035	【選択】 「おや?」「なるほど!」による算数・数学科問題解決の指導一輪しく・優しく育まれる人の心、生きる術、卓越した観智	令和元年7月7日	100	31	31	0	31	31%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10036	【選択】 性や薬物乱用等の現代的課題に対応した保健教育の考え方と進め方	令和元年7月7日	40	37	37	0	37	93%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10037	【選択】 フィールドワークを取り入れた社会科(地理歴史科)の授業の構成	令和元年7月7日	40	32	32	0	32	80%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10038	【選択】 オリンピック・パラリンピック教育の授業づくり	令和元年7月20日	50	43	43	0	43	86%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10039	【選択】 心の教育からの脱却と道徳教育	令和元年7月20日	100	84	84	0	84	84%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10040	【選択】 英語で進める授業の基礎・基本	令和元年7月20日	40	19	19	0	19	48%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10041	【選択】 体づくり運動の教材づくり ～楽しく動いて動きを身に付けよう～	令和元年7月21日	40	36	36	0	36	90%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10042	【選択】 世界の授業、日本の授業ー算数・数学授業の国際比較	令和元年7月21日	40	39	39	0	39	98%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10043	【選択】 書写・書道教育の今日的課題	令和元年7月21日	40	13	13	0	13	33%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10044	【選択】 特別なニーズのある子どもの理解と支援	令和元年7月21日	50	47	47	0	47	94%
選択B	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10045	【選択】 4技能を伸ばし、測定するテストと評価	令和元年7月21日	40	18	18	0	18	45%
選択B	附属高等学校(東京都文京区)	10046	【選択】 エクセルとフリーソフトRを用いたやさしい統計教材の作成	令和元年7月22日	30	11	11	0	11	37%
選択B	附属高等学校(東京都文京区)	10047	【選択】 エクセルとフリーソフトRを用いたやさしい統計教材の作成	令和元年7月23日	30	13	13	0	13	43%
選択B	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10048	【選択】 考える算数・体験的算数	令和元年8月21日	100	96	96	0	96	96%
選択B	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10049	【選択】 特別なニーズのある子どもの理解と支援	令和元年8月21日	50	48	48	0	48	96%
選択B	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10050	【選択】 オリンピックを題材とする体育理論の授業づくりー文化としてのスポーツ学習を中心に	令和元年8月21日	30	22	22	0	22	73%
選択B	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10051	【選択】 視覚に障害のある児童・生徒への様々なサポート	令和元年8月21日	16	14	14	0	14	88%
選択B	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10052	【選択】 授業のユニバーサルデザイン化を考えるー見える子も、見えない子も一緒に学ぶためにー	令和元年8月21日	16	12	12	0	12	75%
選択B	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10053	【選択】 触って考える数学	令和元年8月21日	20	16	16	0	16	80%
選択B	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10054	【選択】 見えにくさ・わかりにくさへの配慮って何だろう? ー拡大教科書や教材・試験問題のアクセシビリティなど学習環境から考えるー	令和元年8月22日	16	14	14	0	14	88%
選択B	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10055	【選択】 幼稚園や小中学校等に在籍する気になる子への支援ー発達障害に焦点を当ててー	令和元年8月23日	60	51	51	0	51	85%
選択B	附属駒場・中等学校(東京都世田谷区)	10056	【選択】 演劇の専門家とつくる教室	令和元年8月23日	20	19	19	0	19	95%
選択B	附属駒場・中等学校(東京都世田谷区)	10057	【選択】 書写指導ー児童・生徒の文字への関心を高めるためにー	令和元年8月23日	24	22	22	0	22	92%
選択B	附属駒場・中等学校(東京都世田谷区)	10058	【選択】 漢文訓読ー高等学校国語での漢文教材の工夫と有効活用ー	令和元年8月24日	30	6	6	0	6	20%
選択B	附属駒場・中等学校(東京都世田谷区)	10059	【選択】 5年後のICT技術と授業・教室ーエバンジェリストと教員との対話ー	令和元年8月24日	20	19	19	0	19	95%

## 選択C受講者受理状況

講習区分	開設地区	科目コード	科目名	開講日	定員	受講申込者数 (受審)数	受講決定者 (受講)数	欠席者数	受講者数	受講率 受講数/定員
選択C	(公財)園芸植物育種研究所(千葉県松戸市)	10060	【選択】丈夫でおいしい野菜の品種をめざして～園芸植物育種研究所での体験型学習～	令和元年6月22日	20	20	20	1	19	100%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10061	【選択】学校の大規模災害対処と法的責任	令和元年6月23日	100	49	49	0	49	49%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10062	【選択】発見！「筑波山地域ジオパーク」	令和元年6月23日	40	39	39	0	39	98%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10063	【選択】知的好奇心を引き出す数学	令和元年6月23日	50	17	17	0	17	34%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10064	【選択】粒子線の医学利用～生活の質を高めるがん治療のために～	令和元年6月23日	40	9	9	0	9	23%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10065	【選択】水・流体と環境問題	令和元年6月23日	40	0	0	0	0	0%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10066	【選択】最新の健康・保健・スポーツ科学を保健体育の授業に活用する	令和元年6月23日	50	17	17	0	17	34%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10067	【選択】水彩絵具で描く～静物～	令和元年6月23日	25	24	24	0	24	96%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10068	【選択】食べ物を作る動物たち	令和元年6月23日	15	15	15	0	15	100%
選択C	(公財)園芸植物育種研究所(千葉県松戸市)	10069	【選択】丈夫でおいしい野菜の品種をめざして～園芸植物育種研究所での体験型学習～	令和元年6月29日	20	18	18	0	18	90%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10070	【選択】まだまだ伸ばせる、あなたの英語力！～小学校英語授業に挑む教師のための、簡単英語で楽しむ講習～	令和元年7月6日	30	30	30	0	30	100%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10071	【選択】学校の大規模災害対処と法的責任	令和元年7月6日	100	40	40	0	40	40%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10072	【選択】コーパスで見る日本語の姿	令和元年7月6日	20	6	6	0	6	30%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10073	【選択】病気を治す材料の科学～薬物治療、再生医療、外科治療で活躍する材料をいかにデザインするか	令和元年7月6日	40	16	16	0	16	40%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10074	【選択】私たちの暮らしを豊かにする無機材料～「やきもの」から「ファインセラミックス」まで～	令和元年7月6日	30	0	0	0	0	0%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10075	【選択】社会で役立つ数学	令和元年7月6日	40	15	15	0	15	38%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10076	【選択】健康と能力発揮のための心身の自己調整と他者理解	令和元年7月6日	100	78	78	0	78	78%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10077	【選択】イタズラ実験オモシロ工作	令和元年7月7日	48	48	48	0	48	100%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10078	【選択】稲と米のはなし	令和元年7月7日	20	20	20	0	20	100%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10079	【選択】学校における個人情報保護	令和元年7月7日	100	19	19	0	19	19%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10080	【選択】アジア・太平洋戦争を問い直す	令和元年7月7日	50	21	21	0	21	42%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10081	【選択】変動する大地 ～地震・津波・火山・地すべり～	令和元年7月7日	60	14	14	0	14	23%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10082	【選択】病いとともに生きる～慢性疾患や発達障害等の子や家族の支援を考える～	令和元年7月7日	40	37	37	0	37	93%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10083	【選択】基礎から学ぶ情報学最前線	令和元年7月7日	40	7	7	0	7	18%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10084	【選択】物性物理・原子層科学を例にした物理のおもしろさの起源	令和元年7月7日	20	7	7	0	7	35%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10085	【選択】簡単にヴィジュアルプログラミング～楽しみながら魅力的な教材をつくらう～	令和元年7月20日	60	53	53	1	52	88%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10086	【選択】学校トラブルへの法的対処(幼稚園・小学校編)	令和元年7月20日	100	48	48	0	48	48%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10087	【選択】政治参加と選挙について考える：日米英を題材に	令和元年7月20日	50	5	5	0	5	10%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10088	【選択】色のいろいろと化学	令和元年7月20日	16	5	5	0	5	31%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10089	【選択】デザインのアプローチと機器や身の回りのものの設計	令和元年7月20日	30	13	13	0	13	43%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10090	【選択】楽しく学べるやさしい天気予報活用術	令和元年7月20日	60	58	58	1	57	97%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10091	【選択】楽しく学べるやさしい天気予報活用術	令和元年7月21日	60	60	60	0	60	100%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10092	【選択】アジア・太平洋戦争を問い直す	令和元年7月21日	50	30	30	0	30	60%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10093	【選択】学校トラブルへの法的対処(中学校・高等学校編)	令和元年7月21日	100	31	31	0	31	31%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10094	【選択】総合学習に取り入れる栽培学習	令和元年7月21日	20	19	19	0	19	95%
選択C	筑波キャンパス(茨城県つくば市)	10095	【選択】里山探検隊	令和元年7月21日	50	46	46	0	46	92%
選択C	茨城県自然博物館(茨城県坂東市)	10096	【選択】動物観察ことはじめ～ミジンコの観察からクマの話まで～	令和元年7月31日	32	31	31	0	31	97%
選択C	東京臨海広域防災公園(東京都江東区)	10097	【選択】実習と実験による役に立つ防災教育(土木学会との共催)	令和元年8月2日	40	39	39	1	38	98%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10098	【選択】アジア・太平洋戦争を問い直す	令和元年8月21日	50	35	35	0	35	70%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10099	【選択】学校における個人情報保護	令和元年8月21日	100	25	25	0	25	25%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10100	【選択】アジア・太平洋戦争を問い直す	令和元年8月22日	50	12	12	0	12	24%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10101	【選択】学校トラブルへの法的対処(幼稚園・小学校編)	令和元年8月22日	100	53	53	0	53	53%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10102	【選択】メディアを読み解く「調べ学習」の実践：国内外の教材や事例を活用した体験的学習	令和元年8月22日	20	19	19	0	19	95%
選択C	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10103	【選択】心から心に響くうた	令和元年8月22日	20	18	18	1	17	90%
選択C	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10104	【選択】リハビリテーションの理論と実際	令和元年8月22日	20	20	20	0	20	100%
選択C	茨城県自然博物館(茨城県坂東市)	10105	【選択】地学教育への基本講座―地層をつくる砂粒から恐竜化石まで～	令和元年8月22日	32	31	31	0	31	97%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10106	【選択】アジア・太平洋戦争を問い直す	令和元年8月23日	50	28	28	1	27	56%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10107	【選択】学校トラブルへの法的対処(中学校・高等学校編)	令和元年8月23日	100	37	37	0	37	37%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10108	【選択】グローバルに活躍できる生徒を育てよう！～筑波大学の海外フィールドワーク研修の取り組み実践例～	令和元年8月23日	30	26	26	0	26	87%
選択C	東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)	10109	【選択】子どもの心技体を高めるコーチング	令和元年8月23日	80	43	43	0	43	54%
選択C	附属視覚特別支援学校(東京都文京区)	10110	【選択】東洋医学的アプローチによる生徒の健康管理	令和元年8月23日	21	19	19	0	19	90%
選択C	附属駒場・中等学校(東京都世田谷区)	10111	【選択】発達期のこころと行動～小児科・精神科の視点から～	令和元年8月24日	120	112	112	1	111	93%

## 選択D受講者受理状況

講習区分	開設地区	科目コード	科目名	開催日	定員	受講申込者数	受講決定者 (受理)数	欠席者数	受講者数	受講率 受理数/定員
選択D	附属視覚特別支援学校	10112	【選択】附属視覚特別支援学校実践演習	令和元年6月15日	24	24	24	2	22	100%
選択D	附属大塚特別支援学校	10113	【選択】附属大塚特別支援学校実践演習（幼稚部・小学部）	令和元年6月15日	36	34	34	0	34	94%
選択D	附属桐が丘特別支援学校	10114	【選択】附属桐が丘特別支援学校実践演習	令和元年6月15日	16	15	15	0	15	94%
選択D	附属小学校	10115	【選択】附属小学校実践演習	令和元年6月22日	40	37	37	0	37	93%
選択D	附属中学校	10116	【選択】附属中学校実践演習	令和元年6月22日	60	16	16	0	16	27%
選択D	附属聴覚特別支援学校	10117	【選択】附属聴覚特別支援学校実践演習 1	令和元年6月22日	30	10	10	0	10	33%
選択D	附属久里浜特別支援学校	10118	【選択】附属久里浜特別支援学校実践演習	令和元年6月22日	25	16	16	0	16	64%
選択D	附属高等学校	10119	【選択】附属高等学校実践演習	令和元年6月29日	40	18	18	0	18	45%
選択D	附属小学校	10120	【選択】附属小学校実践演習	令和元年7月6日	40	38	38	0	38	95%
選択D	附属駒場中・高等学校	10121	【選択】附属駒場中・高等学校実践演習	令和元年8月22日	50	45	45	0	45	90%
選択D	附属聴覚特別支援学校	10122	【選択】附属聴覚特別支援学校実践演習 2	令和元年8月26日	40	36	36	1	35	90%
選択D	附属小学校	10123	【選択】附属小学校実践演習	令和元年9月7日	40	39	39	0	39	98%
選択D	附属大塚特別支援学校	10124	【選択】附属大塚特別支援学校実践演習（中学部・高等部）	令和元年11月2日	36	35	35	1	34	97%
選択D	附属久里浜特別支援学校	10125	【選択】附属久里浜特別支援学校実践演習	令和元年11月9日	25	22	22	0	22	88%
選択D	附属高等学校	10126	【選択】附属高等学校実践演習	令和元年12月7日	40	34	34	2	32	85%
選択D	附属坂戸高等学校	10127	【選択】附属坂戸高等学校実践演習	令和元年12月7日	40	5	5	0	5	13%



区分				茨城県	東京都	埼玉県	千葉県	神奈川県	栃木県	群馬県	合計
必修A	2019/6/15	2019/6/29	第1回	202	11	4	15	0	2	0	234
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	268	24	10	29	2	6	2	341
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	11	144	24	28	17	2	0	226
	2019/11/2	2019/11/9	第4回	0	0	0	0	0	0	0	0
	2019/12/7	2019/12/7	第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				481	179	38	72	19	10	2	801
選択必修a	2019/6/15	2019/6/29	第1回	80	4	4	8	0	4	0	100
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	366	26	16	30	4	4	1	447
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	30	146	25	35	25	2	2	265
	2019/11/2	2019/11/9	第4回	0	0	0	0	0	0	0	0
	2019/12/7	2019/12/7	第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				476	176	45	73	29	10	3	812
選択B	2019/6/15	2019/6/29	第1回	107	12	4	14	2	1	0	140
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	341	40	12	33	6	15	1	448
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	45	181	33	36	23	3	1	322
	2019/11/2	2019/11/9	第4回	0	0	0	0	0	0	0	0
	2019/12/7	2019/12/7	第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				493	233	49	83	31	19	2	910
選択C	2019/6/15	2019/6/29	第1回	154	14	6	25	1	3	1	204
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	585	56	35	63	22	10	0	771
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	88	204	58	37	47	9	3	446
	2019/11/2	2019/11/9	第4回	0	0	0	0	0	0	0	0
	2019/12/7	2019/12/7	第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				827	274	99	125	70	22	4	1,421
選択D	2019/6/15	2019/6/29	第1回	41	62	13	25	12	2	2	157
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	12	16	3	2	3	0	0	36
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	35	37	10	13	14	2	0	111
	2019/11/2	2019/11/9	第4回	9	19	7	7	10	0	0	52
	2019/12/7	2019/12/7	第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				97	134	33	47	39	4	2	356
合計			第1回	584	103	31	87	15	12	3	835
			第2回	1,572	162	76	157	37	35	4	2,043
			第3回	209	712	150	149	126	18	6	1,370
			第4回	9	19	7	7	10	0	0	52
			第5回	0	0	0	0	0	0	0	0
総計				2,374	996	264	400	188	65	13	4,300
割合				55.2%	23.2%	6.1%	9.3%	4.4%	1.5%	0.3%	100.0%
前年度人数				2,919	880	212	382	231	51	16	4,691
増減分				-545	116	52	18	-43	14	-3	-391



区分				北海道	青森県	岩手県	宮城県	山形県	福島県	山梨県	静岡県	長野県	新潟県	愛知県	富山県	三重県	京都府	奈良県	大阪府	岡山県	広島県	徳島県	高知県	福岡県	熊本県	宮崎県	沖縄県	合計	
必修A	2019/6/15	2019/6/29	第1回				1			1						1												3	
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	1					2								1											4	
	2019/8/20	2019/9/7	第3回			1	1	1	1	2	3				1							2			2		12		
	2019/11/2	2019/11/9	第4回																										
	2019/12/7	2019/12/7	第5回																										
小計				1		2	2	3	3	3		3	3		1	1	1	1			2			2		19			
選択必修a	2019/6/15	2019/6/29	第1回			1																					1		
	2019/7/6	2019/8/2	第2回			1			2		1	1			1		1					1					8		
	2019/8/20	2019/9/7	第3回				1			2	2	1									1	2			1		10		
	2019/11/2	2019/11/9	第4回																										
	2019/12/7	2019/12/7	第5回																										
小計						1	2	2	2	2	3	1		1	1	1	1	1		1	2		1		1	19			
選択B	2019/6/15	2019/6/29	第1回																										
	2019/7/6	2019/8/2	第2回			1		2	3		1	1			4				4					2			18		
	2019/8/20	2019/9/7	第3回			1		1	1	1	1	1		1	1	1	2		2	1	2			1	4		17		
	2019/11/2	2019/11/9	第4回																										
	2019/12/7	2019/12/7	第5回																										
小計						1	1	2	4		2	1			5	1	2		6	1	2			3		4	35		
選択C	2019/6/15	2019/6/29	第1回		1					1						1											3		
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	2				1	6	3	2				2		1		1			3					21		
	2019/8/20	2019/9/7	第3回	1		3	1	4	1	7	1					1	1	1	1	1	3		2	1	1	1	29		
	2019/11/2	2019/11/9	第4回																										
	2019/12/7	2019/12/7	第5回																										
小計				3	1	3	2	10	5	9	1			2	1	1	2		2	2	3	3	2	1	1	1	53		
選択D	2019/6/15	2019/6/29	第1回						1																				
	2019/7/6	2019/8/2	第2回	1																					1		2		
	2019/8/20	2019/9/7	第3回																										
	2019/11/2	2019/11/9	第4回		1										1												8		
	2019/12/7	2019/12/7	第5回																								3		
小計				1	1			1		2		3	3	3	1		2		2	2	1	2		1	1	1	24		
合計			第1回		1		2		1	2	1				1	1	2		2	2	2						18		
			第2回	4		2		3	13	3	4	1			7	1	3		5			4		2	1		53		
			第3回	1		6	1	6	1	5	14	2		2	2	3	4	2	3	2	9		2	2	1	8	76		
			第4回		1										1						1						3		
			第5回																										
総計				5	2	2	8	4	20	10	19	3		3	11	5	2	8	2	10	3	11	4	2	5	2	8	1	150
割合				0.12%	0.05%	0.05%	0.19%	0.09%	0.47%	0.23%	0.44%	0.07%	0.07%	0.26%	0.12%	0.05%	0.19%	0.05%	0.23%	0.07%	0.26%	0.09%	0.05%	0.12%	0.05%	0.19%	0.02%	3.49%	

北海道	1	(+1)
-----	---	------

-110-

市町村名	学校設立区分						申込者の内訳																	地域	
							現職教員（学校種内訳）											非現職者							
	公立	国立	私立	その他	計	幼保連携型 認定こども 園に勤務し ている者	認定こども 園及び認可 保育所に勤 務している 者	保育園に 勤務してい る者	幼稚園に 勤務してい る者	小学校に 勤務してい る者	中学校に 勤務してい る者	義務教育 学校に勤 務している 者	高等学校 に勤務し ている者	中等教育 学校に勤 務している 者	特別支 援学校に 勤務し ている者	小計	教員採用 内定者	教員勤務 経験者	教員として 任命又は 雇用され る（見込み のある）者	その他	小計	合計			
結城市	3	0	0	0	1	4	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	0	1	0	0	1	4	県西	
下妻市	13	0	0	0	3	16	0	2	0	1	6	1	0	1	0	2	13	0	3	0	0	3	16	県西	
常総市	16	0	6	0	3	25	1	3	0	1	7	2	0	3	0	2	19	0	2	0	4	6	25	県西	
筑西市	24	0	6	2	2	34	1	4	0	2	10	4	1	5	1	4	32	0	0	1	0	1	2	34	県西
坂東市	8	0	1	0	0	9	0	1	0	0	6	1	0	1	0	0	9	0	0	0	0	0	9	県西	
桜川市	12	0	2	0	0	14	0	1	0	0	6	5	0	1	0	1	14	0	0	0	0	0	14	県西	
結城郡八千代町	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	県西	
猿島郡五霞町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	県西	
猿島郡境町	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	3	県西	
土浦市	51	1	10	1	3	66	0	4	0	2	19	8	2	16	1	11	63	0	2	0	1	0	3	66	県南
古河市	9	0	0	0	3	12	0	0	0	0	3	3	0	1	2	0	9	0	3	0	0	0	3	12	県南
石岡市	20	0	5	0	0	25	1	2	0	1	11	4	1	4	0	1	25	0	0	0	0	0	0	25	県南
龍ヶ崎市	17	0	2	0	0	19	0	1	0	0	10	1	0	4	0	3	19	0	0	0	0	0	0	19	県南
取手市	26	0	4	0	0	30	0	2	0	0	8	9	0	5	0	6	30	0	0	0	0	0	0	30	県南
牛久市	21	0	0	1	1	23	0	1	0	0	8	5	0	4	0	2	20	0	2	1	0	0	3	23	県南
つくば市	94	1	20	4	16	135	0	10	0	7	36	11	8	29	2	7	110	0	15	4	6	0	25	135	県南
守谷市	19	0	0	0	1	20	0	0	0	0	10	3	0	3	0	2	18	0	1	1	0	0	2	20	県南
稲敷市	6	0	1	0	0	7	0	2	0	0	1	1	0	1	0	2	7	0	0	0	0	0	0	7	県南
かすみがうら市	11	0	1	1	2	15	0	1	0	0	7	1	0	1	0	2	12	0	2	0	1	0	3	15	県南
つくばみらい市	14	0	3	3	1	21	0	4	0	0	7	1	1	3	0	3	19	0	1	0	1	0	2	21	県南
稲敷郡美浦村	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	県南
稲敷郡阿見町	14	0	4	0	5	23	1	3	0	0	8	5	0	0	0	1	18	0	3	0	2	0	5	23	県南
稲敷郡河内町	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	県南
利根郡利根町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#N/A
日立市	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	県北
常陸太田市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	県北
高萩市	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	県北
北茨城市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	県北
鹿嶋市	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	4	0	0	1	0	2	7	0	0	0	1	0	1	8	鹿行
潮来市	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	鹿行
神栖市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	鹿行
行方市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	鹿行
鉾田市	3	0	0	0	1	4	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	4	鹿行
水戸市	14	0	3	0	2	19	0	0	0	0	3	1	0	10	0	3	17	0	1	0	1	0	2	19	水戸
笠間市	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	4	0	1	0	0	0	1	5	水戸
ひたちなか市	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	水戸
常陸大宮市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水戸
那珂市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	水戸
小美玉市	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	4	水戸
東茨城郡茨城町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水戸
東茨城郡大洗町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水戸
東茨城郡城里町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	水戸
那珂郡東海村	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	水戸
久慈郡大子町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水戸
合計	435	2	70	12	45	564	6	41	0	14	185	76	13	98	7	59	499	0	37	8	17	3	65	564	

### 茨城県内居住地別申込み状況

# 茨城県内居住地

This map displays the population distribution across various municipalities in Ibaraki Prefecture. The numbers represent the population count for each area.

Municipality	Population
北茨城市	0
高萩市	1
日立市	3
常陸大宮市	0
常陸太田市	0
那珂市	1
東海村	1
ひたちなか市	3
水戸市	19
笠城町	0
大洗町	0
土浦市	4
小美玉市	4
鉾田町	4
行方市	1
鹿嶋市	8
潮来市	8
神栖市	1
利根町	0
河内町	1
龍ヶ崎町	1
取手市	30
守谷市	20
つくばみらい市	21
坂東市	9
筑西市	25
八千代町	2
下妻市	16
結城市	4
富岡市	12
五霞町	0
埴野町	3
つくば市	135
石岡市	25
吾妻市	14
稲川市	14
佐原市	5
城里町	1
常陸大宮市	0
常陸太田市	0
那珂市	1
東海村	1
ひたちなか市	3
水戸市	19
笠城町	0
大洗町	0
土浦市	4
小美玉市	4
鉾田町	4
行方市	1
鹿嶋市	8
潮来市	8
神栖市	1
利根町	0
河内町	1
龍ヶ崎町	1
取手市	30
守谷市	20
つくばみらい市	21
坂東市	9
筑西市	25
八千代町	2
下妻市	16
結城市	4
富岡市	12
五霞町	0
埴野町	3

令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第4回)				第1回講習(6・7月)					第2回講習(7・8月)					第3回講習(8・9月)					第4回講習(10・11・12月)					全体集計結果(第1回～4回)									
区分		全体集計			849人					2,083人					1,476人					92人					4,500人								
ID		幼	小	中	高	特別支援 校種別 人数	その他	幼	小	中	高	特別支援 その他	幼	小	中	高	特別支援 その他	幼	小	中	高	特別支援 その他	幼	小	中	高	特別支援 その他	幼	小	中	高	特別支援 その他	H30 全体の平均
	必修A・選択必修a・選択B・選択C・選択D	99人	257人	113人	126人	116人	138人	228人	565人	207人	353人	209人	521人	41人	465人	147人	214人	224人	385人	3人	15人	8人	24人	26人	16人	371人	1,302人	475人	717人	575人	1,060人		
文部科学省指定の評価項目																																	
Ⅰ 本講習の内容・方法についての(上記の1～5)の視点を踏まえた総合的な評価	4	3	2	1	平均	H30第1回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第2回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第3回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第4回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30 全体の平均			
	566人	259人	21人	2人	3.6	3.6	1,487人	527人	58人	10人	3.7	3.6	1,042人	352人	29人	5人	3.7	3.7	3.7	72人	19人	1人	0人	3.8	3.9	3,167人	1,157人	109人	17人	3.7	3.6		
	66.7%	30.5%	2.5%	0.2%			71.4%	25.3%	2.8%	0.5%			73.0%	24.6%	2.0%	0.4%				78.3%	20.7%	1.1%	0.0%			71.2%	26.0%	2.4%	0.4%				
Ⅱ 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記の6～9)の視点を踏まえた総合的な評価	583人	239人	25人	2人	3.7	3.6	1,483人	533人	59人	6人	3.7	3.6	1,081人	319人	22人	7人	3.7	3.7	3.7	72人	16人	4人	0人	3.7	3.8	3,219人	1,107人	110人	15人	3.7	3.6		
	68.7%	28.2%	2.9%	0.2%			71.3%	25.6%	2.8%	0.3%			75.6%	22.3%	1.5%	0.5%				78.3%	17.4%	4.3%	0.0%			72.3%	24.9%	2.5%	0.3%				
Ⅲ 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	648人	182人	10人	1人	3.8	3.7	1,587人	439人	29人	4人	3.8	3.7	1,090人	293人	37人	2人	3.7	3.7	3.7	72人	16人	4人	0人	3.7	3.7	3,397人	930人	80人	7人	3.7	3.7		
	77.1%	21.6%	1.2%	0.1%			77.1%	21.3%	1.4%	0.2%			76.7%	20.6%	2.6%	0.1%				78.3%	17.4%	4.3%	0.0%			77.0%	21.1%	1.8%	0.2%				
項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集計	1,797人	680人	56人	5人	3.7	3.6	4,557人	1,499人	146人	20人	3.7	3.6	3,213人	964人	88人	14人	3.7	3.7	3.7	216人	51人	9人	0人	3.8	3.8	9,783人	3,194人	299人	39人	3.7	3.7		
	70.8%	26.8%	2.2%	0.2%			73.2%	24.1%	2.3%	0.3%			75.1%	22.5%	2.1%	0.3%				78.3%	18.5%	3.3%	0.0%			73.5%	24.0%	2.2%	0.3%				
筑波大学独自の評価項目																																	
① 内容が自分のニーズに合っていた。	4	3	2	1	平均	H30第1回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第2回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第3回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30第4回 全体の平均	4	3	2	1	平均	H30 全体の平均			
	522人	342人	54人	6人	3.5	3.5	1,392人	564人	110人	14人	3.6	3.5	1,007人	413人	52人	11人	3.6	3.6	3.6	68人	19人	5人	0人	3.7	3.7	2,989人	1,338人	221人	31人	3.6	3.5		
	56.5%	37.0%	5.8%	0.6%			66.9%	27.1%	5.3%	0.7%			67.9%	27.8%	3.5%	0.7%				73.9%	20.7%	5.4%	0.0%			65.3%	29.2%	4.8%	0.7%				
② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。	569人	294人	55人	5人	3.5	3.5	1,413人	553人	101人	12人	3.6	3.5	1,025人	395人	52人	11人	3.6	3.6	3.6	71人	15人	6人	0人	3.7	3.8	3,078人	1,257人	214人	28人	3.6	3.6		
	61.6%	31.9%	6.0%	0.5%			68.0%	26.6%	4.9%	0.6%			69.1%	26.6%	3.5%	0.7%				77.2%	16.3%	6.5%	0.0%			67.2%	27.5%	4.7%	0.6%				
③ 講師の説明が分かりやすかった。	616人	274人	26人	6人	3.6	3.6	1,506人	496人	68人	9人	3.7	3.6	1,095人	339人	41人	8人	3.7	3.7	3.7	67人	20人	4人	0人	3.7	3.8	3,284人	1,129人	139人	23人	3.6	3.7		
	66.8%	29.7%	2.8%	0.7%			72.4%	23.9%	3.3%	0.4%			73.8%	22.9%	2.8%	0.5%				73.6%	22.0%	4.4%	0.0%			71.8%	24.7%	3.0%	0.5%				
④ 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。	618人	277人	25人	2人	3.6	3.7	1,511人	488人	69人	10人	3.7	3.6	1,053人	375人	46人	8人	3.7	3.7	3.7	69人	22人	1人	0人	3.7	3.8	3,251人	1,162人	141人	20人	3.7	3.7		
	67.0%	30.0%	2.7%	0.2%			72.7%	23.5%	3.3%	0.5%			71.1%	25.3%	3.1%	0.5%				75.0%	23.9%	1.1%	0.0%			71.1%	25.4%	3.1%	0.4%				
⑤ 本講習の受講者数が適切であった。	698人	212人	13人	0人	3.7	3.8	1,665人	389人	26人	0人	3.8	3.7	1,175人	291人	15人	2人	3.8	3.8	3.8	69人	18人	5人	0人	3.7	3.7	3,607人	910人	59人	2人	3.8	3.7		
	75.6%	23.0%	1.4%	0.0%			80.0%	18.7%	1.3%	0.0%			79.2%	19.6%	1.0%	0.1%				75.0%	19.6%	5.4%	0.0%			78.8%	19.9%	1.3%	0.0%				
⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。	641人	250人	31人	0人	3.7	3.7	1,510人	487人	80人	4人	3.7	3.6	1,102人	320人	52人	8人	3.8	3.8	3.8	57人	25人	9人	1人	3.5	3.5	3,310人	1,082人	172人	13人	3.7	3.7		
	69.5%	27.1%	3.4%	0.0%			72.6%	23.4%	3.8%	0.2%			74.4%	21.6%	3.5%	0.5%				62.0%	27.2%	9.8%	1.1%			72.3%	23.6%	3.8%	0.3%				
⑦ 申し込みから終了までのスタッフの対応が適切であった。	707人	197人	15人	4人	3.7	3.7	1,680人	380人	19人	2人	3.8	3.7	1,172人	283人	24人	2人	3.8	3.8	3.8	82人	9人	1人	0人	3.9	3.9	3,641人	869人	59人	8人	3.8	3.7		
	76.6%	21.3%	1.6%	0.4%			80.7%	18.3%	0.9%	0.1%			79.1%	19.1%	1.6%	0.1%				89.1%	9.8%	1.1%	0.0%			79.5%	19.0%	1.3%	0.2%				

令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第3回)				第1回講習(6月)					第2回講習(7月)					第3回講習(8月)					全体集計結果(第1回～3回)									
区分	必修A				238人					342人					221人					801人								
ID	校種別人数				幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他						
	教育の最新事情				24人	75人	40人	40人	28人	31人	43人	94人	29人	48人	32人	96人	3人	78人	26人	40人	41人	33人	70人	247人	95人	128人	101人	160人

文部科学省指定の評価項目																
I 本講習の内容・方法についての(下記の5つの視点を踏まえた)総合的な評価				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	148人	84人	6人	0人	3.6	210人	120人	10人	1人	3.6	104人	118人	9人	1人	3.4	3.5
	62.2%	35.3%	2.5%	0.0%		61.6%	35.2%	2.9%	0.3%		44.8%	50.9%	3.9%	0.4%		3.5
II 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(下記の4つの視点を踏まえた)総合的な評価				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	157人	76人	5人	0人	3.6	214人	113人	14人	0人	3.6	122人	101人	7人	2人	3.5	3.5
	66.0%	31.9%	2.1%	0.0%		62.8%	33.1%	4.1%	0.0%		52.6%	43.5%	3.0%	0.9%		3.5
III 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	179人	61人	1人	1人	3.7	238人	92人	9人	0人	3.7	159人	67人	6人	0人	3.7	3.6
	72.7%	25.6%	0.4%	0.4%		70.2%	27.1%	2.7%	0.0%		68.5%	28.9%	2.6%	0.0%		3.6
	478人	221人	12人	1人	3.7	662人	325人	33人	1人	3.6	385人	286人	22人	3人	3.5	3.5
	67.1%	31.0%	1.7%	0.1%		64.8%	31.8%	3.2%	0.1%		55.3%	41.1%	3.2%	0.4%		3.6

3.7

筑波大学独自の評価項目																
① 内容が自分のニーズに合っていた。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	137人	149人	26人	1人	3.5	187人	131人	24人	0人	3.5	99人	110人	21人	2人	3.3	3.4
	43.8%	47.6%	8.3%	0.3%		54.7%	38.3%	7.0%	0.0%		42.7%	47.4%	9.1%	0.9%		3.4
② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	159人	134人	18人	2人	3.5	199人	123人	19人	0人	3.5	102人	104人	24人	2人	3.3	3.5
	50.8%	42.8%	5.8%	0.6%		58.4%	36.1%	5.6%	0.0%		44.0%	44.8%	10.3%	0.9%		3.5
③ 講師の説明が分かりやすかった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	160人	143人	9人	1人	3.6	206人	118人	16人	0人	3.6	91人	128人	13人	0人	3.3	3.5
	51.1%	45.7%	2.9%	0.3%		60.6%	34.7%	4.7%	0.0%		39.2%	55.2%	5.6%	0.0%		3.5
④ 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	165人	136人	10人	1人	3.6	214人	111人	16人	0人	3.6	91人	118人	23人	0人	3.3	3.5
	52.7%	43.5%	3.2%	0.3%		62.8%	32.6%	4.7%	0.0%		39.2%	50.9%	9.9%	0.0%		3.5
⑤ 本講習の受講者数が適切であった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	191人	116人	6人	0人	3.7	231人	100人	10人	0人	3.6	122人	100人	9人	1人	3.5	3.6
	61.0%	37.1%	1.9%	0.0%		67.7%	29.3%	2.9%	0.0%		52.6%	43.1%	3.9%	0.4%		3.6
⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	185人	113人	14人	0人	3.5	220人	99人	20人	2人	3.6	127人	81人	20人	4人	3.4	3.6
	61.0%	37.1%	1.9%	0.0%		64.5%	29.0%	5.9%	0.6%		54.7%	34.9%	8.6%	1.7%		3.6
⑦ 申し込みから修了までのスタッフの対応が適切であった。				H30必修A 1回の平均		H30必修A 2回の平均		H30必修A 3回の平均		H30必修A 全体の平均						
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	
	204人	97人	9人	3人	3.7	249人	85人	6人	1人	3.7	159人	70人	3人	0人	3.7	3.6
	65.2%	31.0%	2.9%	1.0%		73.0%	24.9%	1.8%	0.3%		68.5%	30.2%	1.3%	0.0%		3.6

3.7

令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第3回)				第1回講習(6月)										第2回講習(7月)										第3回講習(8月)										全体集計結果(第1回～3回)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
区分		選択必修 <sup>a</sup>				100人						454人						329人						883人																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
ID		校種別 人数				幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		教育の最新事情				19人	22人	11人	12人	21人	15人	50人	123人	49人	72人	48人	112人	9人	112人	32人	52人	45人	79人	78人	257人	92人	136人	114人	206人																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
文部科学省指定の評価項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
Ⅰ	本講習の内容・方法についての(下記の5つの視点を踏まえた)総合的な評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	4	3	2	1	平均	H30選択必修 <sup>a</sup> 1回の平均						4	3	2	1	平均	H30選択必修 <sup>a</sup> 2回の平均						4	3	2	1	平均	H30選択必修 <sup>a</sup> 3回の平均						4	3	2	1	平均	H30選択必修 <sup>a</sup> 全体の平均																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	41人	46人	12人	1人	3.3	3.6						298人	132人	21人	3人	3.6	3.5						192人	69人	8人	1人	3.7	3.7						531人	247人	41人	5人	3.6	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
						41.0%	46.0%	12.0%	1.0%							65.6%	29.1%	4.6%	0.7%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

筑波大学独自の評価項目				4	3	2	1	平均	H30選択必修a 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択必修a 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択必修a 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択必修a 全体の平均
① 内容が自分のニーズに合っていた。				35人	48人	14人	3人	3.2	3.0	282人	139人	27人	4人	3.5	3.4	205人	108人	10人	6人	3.6	3.6	522人	295人	51人	13人	3.5	3.4
				35.0%	48.0%	14.0%	3.0%			62.1%	30.6%	5.9%	0.9%			62.3%	32.8%	3.0%	1.8%			59.3%	33.5%	5.8%	1.5%		
② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。				40人	37人	21人	2人	3.2	3.2	289人	136人	25人	2人	3.6	3.5	207人	104人	13人	5人	3.6	3.6	536人	277人	59人	9人	3.5	3.5
				40.0%	37.0%	21.0%	2.0%			63.7%	30.0%	5.5%	0.4%			62.9%	31.6%	4.0%	1.5%			60.8%	31.4%	6.7%	1.0%		
③ 講師の説明が分かりやすかった。				41人	44人	13人	2人	3.2	3.2	293人	136人	21人	2人	3.6	3.5	240人	73人	12人	4人	3.7	3.7	574人	253人	46人	8人	3.6	3.5
				41.0%	44.0%	13.0%	2.0%			64.5%	30.0%	4.6%	0.4%			72.9%	22.2%	3.6%	1.2%			65.2%	28.7%	5.2%	0.9%		
④ 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。				53人	38人	8人	1人	3.4	3.4	297人	132人	22人	2人	3.6	3.5	226人	88人	10人	4人	3.7	3.6	576人	258人	40人	7人	3.6	3.6
				53.0%	38.0%	8.0%	1.0%			65.4%	29.1%	4.8%	0.4%			68.7%	26.7%	3.0%	1.2%			65.4%	29.3%	4.5%	0.8%		
⑤ 本講習の受講者数が適切であった。				65人	33人	2人	0人	3.6	3.6	348人	99人	5人	0人	3.8	3.7	262人	65人	2人	0人	3.8	3.8	675人	197人	9人	0人	3.8	3.7
				65.0%	33.0%	2.0%	0.0%			76.7%	21.8%	1.1%	0.0%			79.6%	19.8%	0.6%	0.0%			76.6%	22.4%	1.0%	0.0%		
⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。				59人	33人	8人	0人	3.5	3.5	305人	124人	24人	0人	3.6	3.6	242人	79人	8人	0人	3.6	3.7	606人	236人	40人	0人	3.6	3.6
				59.0%	33.0%	8.0%	0.0%			67.2%	27.3%	5.3%	0.0%			73.6%	24.0%	2.4%	0.0%			68.7%	26.8%	4.5%	0.0%		
⑦ 申し込みから修了までのスタッフの対応が適切であった。				66人	31人	3人	0人	3.6	3.6	337人	111人	5人	0人	3.7	3.7	246人	76人	5人	1人	3.8	3.7	649人	218人	13人	1人	3.7	3.7
				66.0%	31.0%	3.0%	0.0%			74.2%	24.4%	1.1%	0.0%			74.8%	23.1%	1.5%	0.3%			73.7%	24.7%	1.5%	0.1%		



令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第3回)				第1回講習(6月)				第2回講習(7月)				第3回講習(8月)				全体集計結果(第1回～3回)			
区分		選択B		140人				462人				337人				939人			
ID	回答者数	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他
	校種別人数	17人	50人	20人	20人	8人	25人	32人	125人	57人	89人	37人	122人	12人	124人	29人	25人	43人	104人
教科・領域の指導力を磨く																			

文部科学省指定の評価項目		4	3	2	1	平均	H30選択B 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 全体の平均
Ⅰ: 本講習の内容・方法についての(上記の1～5)の視点を踏まえた総合的な評価		104人	35人	1人	0人	3.7	3.7	334人	110人	14人	4人	3.7	3.7	285人	50人	2人	0人	3.8	3.9	723人	195人	17人	4人	3.7	3.8
		74.3%	25.0%	0.7%	0.0%			72.3%	23.8%	3.0%	0.9%			84.6%	14.8%	0.6%	0.0%			77.0%	20.8%	1.8%	0.4%		
Ⅱ: 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記の6～9)の視点を踏まえた総合的な評価		103人	35人	2人	0人	3.7	3.7	332人	111人	17人	2人	3.7	3.7	289人	44人	4人	0人	3.8	3.9	724人	190人	23人	2人	3.7	3.8
		73.6%	25.0%	1.4%	0.0%			71.9%	24.0%	3.7%	0.4%			85.8%	13.1%	1.2%	0.0%			77.1%	20.2%	2.4%	0.2%		
Ⅲ: 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価		113人	23人	3人	0人	3.8	3.7	356人	90人	8人	3人	3.7	3.8	286人	47人	3人	0人	3.8	3.9	755人	160人	14人	3人	3.8	3.8
		80.7%	16.4%	2.1%	0.0%			77.1%	19.5%	1.7%	0.6%			84.9%	13.9%	0.9%	0.0%			81.0%	17.2%	1.5%	0.3%		
項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集計		320人	93人	6人	0人	3.7	3.7	1022人	311人	39人	9人	3.7	3.7	860人	141人	9人	0人	3.8	3.9	2202人	545人	54人	9人	3.8	3.8
		76.4%	22.2%	1.4%	0.0%			74.0%	22.5%	2.8%	0.7%			85.1%	14.0%	0.9%	0.0%			78.4%	19.4%	1.9%	0.3%		

筑波大学独自の評価項目		4	3	2	1	平均	H30選択B 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択B 全体の平均
①: 内容が自分のニーズに合っていた。		102人	35人	3人	0人	3.7	3.5	328人	102人	28人	4人	3.6	3.6	259人	68人	6人	1人	3.8	3.8	689人	205人	37人	5人	3.7	3.7
		72.9%	25.0%	2.1%	0.0%			71.0%	22.1%	6.1%	0.9%			76.9%	20.2%	1.8%	0.3%			73.6%	21.9%	4.0%	0.5%		
②: 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。		105人	34人	1人	0人	3.7	3.7	323人	105人	30人	4人	3.6	3.7	272人	58人	3人	1人	3.8	3.8	700人	197人	34人	5人	3.7	3.7
		75.0%	24.3%	0.7%	0.0%			69.9%	22.7%	6.5%	0.9%			80.7%	17.2%	0.9%	0.3%			74.8%	21.0%	3.6%	0.5%		
③: 講師の説明が分かりやすかった。		117人	22人	0人	1人	3.8	3.7	343人	99人	14人	6人	3.7	3.7	284人	47人	3人	0人	3.8	3.9	744人	168人	17人	7人	3.8	3.8
		83.6%	15.7%	0.0%	0.7%			74.2%	21.4%	3.0%	1.3%			84.3%	13.9%	0.9%	0.0%			79.5%	17.9%	1.8%	0.7%		
④: 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。		109人	31人	0人	0人	3.8	3.7	335人	98人	21人	6人	3.7	3.7	276人	54人	4人	0人	3.8	3.8	720人	183人	25人	6人	3.7	3.8
		77.9%	22.1%	0.0%	0.0%			72.5%	21.2%	4.5%	1.3%			81.9%	16.0%	1.2%	0.0%			77.1%	19.6%	2.7%	0.6%		
⑤: 本講習の受講者数が適切であった。		127人	13人	0人	0人	3.9	3.8	378人	80人	4人	0人	3.8	3.8	295人	38人	1人	0人	3.9	3.9	800人	131人	5人	0人	3.8	3.8
		90.7%	9.3%	0.0%	0.0%			81.8%	17.3%	0.9%	0.0%			87.5%	11.3%	0.3%	0.0%			85.5%	14.0%	0.5%	0.0%		
⑥: 教室の広さや設備等の環境が適切であった。		111人	26人	3人	0人	3.8	3.8	354人	93人	14人	1人	3.7	3.7	282人	45人	5人	2人	3.8	3.7	747人	164人	22人	3人	3.8	3.7
		79.3%	18.6%	2.1%	0.0%			76.6%	20.1%	3.0%	0.2%			83.7%	13.4%	1.5%	0.6%			79.8%	17.5%	2.4%	0.3%		
⑦: 申し込みから修了までのスタッフの対応が適切であった。		119人	20人	1人	0人	3.8	3.8	381人	74人	6人	1人	3.8	3.8	294人	40人	0人	0人	3.9	3.9	794人	134人	7人	1人	3.8	3.8
		85.0%	14.3%	0.7%	0.0%			82.5%	16.0%	1.3%	0.2%			87.2%	11.9%	0.0%	0.0%			84.8%	14.3%	0.7%	0.1%		



令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第3回)				第1回講習(6月)					第2回講習(7月)					第3回講習(8月)					全体集計結果(第1回～3回)						
区分		選択C		206人					787人					470人					1463人						
ID	回答者数	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他
教師力(総合力・応用力)の向上		31人	51人	27人	35人	18人	44人	102人	193人	72人	144人	92人	184人	15人	102人	53人	83人	74人	143人	148人	346人	152人	262人	184人	371人
文部科学省指定の評価項目																									
Ⅰ 本講習の内容・方法についての(上記の1～5)の視点を踏まえた総合的な評価	4	3	2	1	平均	H30選択C 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 全体の平均	
	142人	60人	2人	1人	3.7	3.7	610人	162人	13人	2人	3.8	3.8	360人	97人	10人	3人	3.7	3.7	1,112人	319人	25人	6人	3.7	3.7	
Ⅱ 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記の6～9)の視点を踏まえた総合的な評価	68.9%	29.1%	1.0%	0.5%			77.5%	20.6%	1.7%	0.3%			76.6%	20.6%	2.1%	0.6%			76.1%	21.8%	1.7%	0.4%			
	143人	56人	6人	1人	3.7	3.7	593人	178人	13人	2人	3.7	3.8	367人	91人	8人	4人	3.7	3.7	1,103人	325人	27人	7人	3.7	3.6	
Ⅲ 本講習の運営面(受講者数・会場・連絡等)についての評価	69.4%	27.2%	2.9%	0.5%			75.3%	22.6%	1.7%	0.3%			78.1%	19.4%	1.7%	0.9%			75.4%	22.2%	1.8%	0.5%			
	163人	41人	0人	0人	3.8	3.8	627人	143人	5人	1人	3.8	3.8	345人	103人	14人	1人	3.7	3.7	1,135人	287人	19人	2人	3.8	3.7	
項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集計	79.1%	19.9%	0.0%	0.0%			79.7%	18.2%	0.6%	0.1%			73.4%	21.9%	3.0%	0.2%			78.7%	19.9%	1.3%	0.1%			
	448人	157人	8人	2人	3.7	3.7	1,830人	483人	31人	5人	3.8	3.8	1,072人	291人	32人	8人	3.7	3.7	3,350人	931人	71人	15人	3.7	3.7	
		72.8%	25.5%	1.3%	0.3%		77.9%	20.6%	1.3%	0.2%			76.4%	20.7%	2.3%	0.6%			76.7%	21.3%	1.6%	0.3%			
筑波大学独自の評価項目																									
① 内容が自分のニーズに合っていた。	4	3	2	1	平均	H30選択C 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択C 全体の平均	
	129人	65人	10人	2人	3.6	3.6	561人	188人	31人	6人	3.7	3.7	345人	109人	13人	2人	3.7	3.6	1,035人	362人	54人	10人	3.7	3.5	
② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。	62.6%	31.6%	4.9%	1.0%			71.3%	23.9%	3.9%	0.8%			73.4%	23.2%	2.8%	0.4%			70.8%	24.8%	3.7%	0.7%			
	136人	54人	14人	1人	3.6	3.6	567人	186人	27人	6人	3.7	3.6	343人	112人	11人	3人	3.7	3.7	1,046人	352人	52人	10人	3.7	3.6	
③ 講師の説明が分かりやすかった。	66.0%	26.2%	6.8%	0.5%			72.0%	23.6%	3.4%	0.8%			73.0%	23.8%	2.3%	0.6%			71.6%	24.1%	3.6%	0.7%			
	153人	47人	3人	2人	3.7	3.8	629人	140人	17人	1人	3.8	3.9	377人	78人	10人	4人	3.8	3.7	1,159人	265人	30人	7人	3.8	3.7	
④ 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。	74.3%	22.8%	1.5%	1.0%			79.9%	17.8%	2.2%	0.1%			80.2%	16.6%	2.1%	0.9%			79.3%	18.1%	2.1%	0.5%			
	155人	43人	7人	0人	3.7	3.8	628人	146人	10人	2人	3.8	3.8	353人	103人	9人	4人	3.7	3.7	1,136人	292人	26人	6人	3.8	3.7	
⑤ 本講習の受講者数が適切であった。	75.2%	20.9%	3.4%	0.0%			79.8%	18.6%	1.3%	0.3%			75.1%	21.9%	1.9%	0.9%			77.8%	20.0%	1.8%	0.4%			
	170人	33人	2人	0人	3.8	3.8	672人	108人	7人	0人	3.8	3.8	385人	81人	2人	1人	3.8	3.8	1,227人	222人	11人	1人	3.8	3.8	
⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。	82.5%	16.0%	1.0%	0.0%			85.4%	13.7%	0.9%	0.0%			81.9%	17.2%	0.4%	0.2%			84.0%	15.2%	0.8%	0.1%			
	155人	47人	3人	0人	3.7	3.7	600人	165人	21人	1人	3.7	3.8	345人	104人	17人	2人	3.7	3.7	1,100人	316人	41人	3人	3.7	3.7	
⑦ 申し込みから修了までのスタッフの対応が適切であった。	75.2%	22.8%	1.5%	0.0%			76.2%	21.0%	2.7%	0.1%			73.4%	22.1%	3.6%	0.4%			75.3%	21.6%	2.8%	0.2%			
	171人	31人	2人	1人	3.8	3.8	677人	108人	2人	0人	3.9	3.8	367人	87人	13人	1人	3.8	3.7	1,215人	226人	17人	2人	3.8	3.7	
		83.0%	15.0%	1.0%	0.5%		86.0%	13.7%	0.3%	0.0%			78.1%	18.5%	2.8%	0.2%			83.2%	15.5%	1.2%	0.1%			

令和元年度 受講者評価書集計結果(第1回から第4回)				第1回講習(6月)										第2回講習(7月)										第3回講習(8・9月)										第4回講習(10・11・12月)										全体集計結果(第1回～4回)									
区分		選択D		165人										38人										119人										92人										414人									
ID	校種別 人数	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他	幼	小	中	高	特別支援	その他																
	附属学校実践演習	8人	59人	15人	19人	41人	23人	1人	30人	0人	0人	0人	7人	2人	49人	7人	14人	21人	26人	3人	15人	8人	24人	26人	16人	14人	153人	30人	57人	88人	72人																						
文部科学省指定の評価項目																																																					
Ⅰ	本講習の内容・方法についての(上記の1～5)の視点を踏まえた総合的な評価	4	3	2	1	平均	H30選択D 1回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択D 2回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択D 3回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択D 4回の平均	4	3	2	1	平均	H30選択D 全体の平均																						
		131人	34人	0人	0人	3.8	3.9	35人	3人	0人	0人	3.9	3.9	101人	18人	0人	0人	3.8	3.7	72人	19人	1人	0人	3.8	3.8	339人	74人	1人	0人	3.8																							
		79.4%	20.6%	0.0%	0.0%			92.1%	7.9%	0.0%	0.0%			84.9%	15.1%	0.0%	0.0%			78.3%	20.7%	1.1%	0.0%			81.9%	17.9%	0.2%	0.0%																								
Ⅱ	本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記の6～9)の視点を踏まえた総合的な評価	136人	29人	0人	0人	3.8	3.9	34人	4人	0人	0人	3.9	3.9	101人	18人	0人	0人	3.8	3.6	72人	16人	4人	0人	3.7	3.8	343人	67人	4人	0人	3.8																							
		82.4%	17.6%	0.0%	0.0%			89.5%	10.5%	0.0%	0.0%			84.9%	15.1%	0.0%	0.0%			78.3%	17.4%	4.3%	0.0%			82.9%	16.2%	1.0%	0.0%																								
Ⅲ	本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	141人	22人	2人	0人	3.8	3.9	33人	5人	0人	0人	3.9	3.9	103人	12人	4人	0人	3.8	3.8	72人	16人	4人	0人	3.7	3.8	349人	55人	10人	0人	3.8																							
		85.5%	13.3%	1.2%	0.0%			86.8%	13.2%	0.0%	0.0%			86.6%	10.1%	3.4%	0.0%			78.3%	17.4%	4.3%	0.0%			84.3%	13.3%	2.4%	0.0%																								
項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集計		408人	85人	2人	0人	3.8	3.9	102人	12人	0人	0人	3.9	3.9	305人	48人	4人	0人	3.8	3.7	216人	51人	9人	0人	3.8	3.8	1031人	196人	15人	0人	3.8																							
		82.4%	17.2%	0.4%	0.0%			89.5%	10.5%	0.0%	0.0%			85.4%	13.4%	1.1%	0.0%			78.3%	18.5%	3.3%	0.0%			83.0%	15.8%	1.2%	0.0%																								
筑波大学独自の評価項目																																																					
①	内容が自分のニーズに合っていた。	119人	45人	1人	0人	3.7	3.8	34人	4人	0人	0人	3.9	3.9	99人	18人	2人	0人	3.8	3.6	68人	19人	5人	0人	3.7	3.7	320人	86人	8人	0人	3.8																							
		72.1%	27.3%	0.6%	0.0%			89.5%	10.5%	0.0%	0.0%			83.2%	15.1%	1.7%	0.0%			73.9%	20.7%	5.4%	0.0%			77.3%	20.6%	1.9%	0.0%																								
②	自分のこれからの実践に生かせる内容であった。	129人	35人	1人	0人	3.8	3.8	35人	3人	0人	0人	3.9	3.9	101人	17人	1人	0人	3.8	3.6	71人	15人	6人	0人	3.7	3.8	336人	70人	8人	0人	3.8																							
		78.2%	21.2%	0.6%	0.0%			92.1%	7.9%	0.0%	0.0%			84.9%	14.3%	0.8%	0.0%			77.2%	16.3%	6.5%	0.0%			81.2%	16.6%	1.9%	0.0%																								
③	講師の説明が分かりやすかった。	145人	18人	1人	0人	3.9	3.9	35人	3人	0人	0人	3.9	3.9	103人	13人	3人	0人	3.8	3.7	67人	20人	4人	0人	3.7	3.8	350人	54人	8人	0人	3.8																							
		87.9%	10.9%	0.6%	0.0%			92.1%	7.9%	0.0%	0.0%			86.6%	10.9%	2.5%	0.0%			73.6%	22.0%	4.4%	0.0%			85.0%	13.1%	1.9%	0.0%																								
④	本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。	136人	29人	0人	0人	3.8	3.9	37人	1人	0人	0人	4.0	3.9	107人	12人	0人	0人	3.9	3.7	69人	22人	1人	0人	3.7	3.8	349人	64人	1人	0人	3.8																							
		82.4%	17.6%	0.0%	0.0%			97.4%	2.6%	0.0%	0.0%			89.9%	10.1%	0.0%	0.0%			75.0%	23.9%	1.1%	0.0%			84.3%	15.5%	0.2%	0.0%																								
⑤	本講習の受講者数が適切であった。	145人	17人	3人	0人	3.9	3.9	36人	2人	0人	0人	3.9	3.9	111人	7人	1人	0人	3.9	3.8	69人	18人	5人	0人	3.7	3.7	361人	44人	9人	0人	3.9																							
		87.9%	10.3%	1.8%	0.0%			94.7%	5.3%	0.0%	0.0%			93.3%	5.9%	0.8%	0.0%			75.0%	19.6%	5.4%	0.0%			87.2%	10.6%	2.2%	0.0%																								
⑥	教室の広さや設備等の環境が適切であった。	131人	31人	3人	0人	3.8	3.8	31人	6人	1人	0人	3.8	3.8	106人	11人	2人	0人	3.9	3.8	57人	25人	9人	1人	3.5	3.5	325人	73人	15人	1人	3.7																							
		79.4%	18.8%	1.8%	0.0%			81.6%	15.8%	2.6%	0.0%			89.1%	9.2%	1.7%	0.0%			62.0%	27.2%	9.8%	1.1%			78.5%	17.6%	3.6%	0.2%																								
⑦	申し込みから修了までのスタッフの対応が適切であった。	147人	18人	0人	0人	3.9	3.9	36人	2人	0人	0人	3.9	4.0	106人	10人	3人	0人	3.9	3.8	82人	9人	1人	0人	3.9	3.9	371人	39人	4人	0人	3.9																							
		89.1%	10.9%	0.0%	0.0%			94.7%	5.3%	0.0%	0.0%			89.1%	8.4%	2.5%	0.0%			89.1%	9.8%	1.1%	0.0%			89.6%	9.4%	1.0%	0.0%																								

## 2019年度筑波大学教員免許状更新講習受講者評価書(事後アンケート)

開設者	筑波大学	受講期間	2019年6月22日		
講習名	教育の最新事情1回1クラス				
受講者の 学校種	幼・小・中・高・特別支援・その他 該当する箇所(義務、中等の場合は、担当学年の 学校種)に○を付けてください。	職名		担当教科等	

◎ 以下のⅠ・Ⅱ・Ⅲの項目のあなたの評価について、評価基準の4～1の該当する番号に○印をつけてください。  
 評価の基準は以下のとおりとします。

4：よい(十分満足した・十分成果を得られた) 3：だいたいよい(満足した・成果を得られた) 2：あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった) 1：不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)	◎本評価は今後の免許状更新講習の改善と更新講習に関する情報提供のために行われるものであり、あなたの履修認定に係る評価には一切影響を与えません。
---	---

Ⅰ. 本講習の内容・方法についての(下記の5つの視点を踏まえた)総合的な評価	4   3   2   1
・ 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。 ・ 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。 ・ 受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。 ・ 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。 ・ 配付資料等使用した教材は適切であった。	
Ⅱ. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(下記の4つの視点を踏まえた)総合的な評価	4   3   2   1
・ 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。 ・ 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。 ・ 各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。 ・ 受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。	
Ⅲ. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	4   3   2   1

◎ 以下の項目は、筑波大学の今後の教員免許状更新講習に役立てるためのものです。それぞれの項目の評価について、上記の評価基準の4～1の該当する番号に○印をつけてください。

① 内容が自分のニーズに合っていた。	4   3   2   1
② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。	4   3   2   1
③ 講師の説明が分かりやすかった。	4   3   2   1
④ 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。	4   3   2   1
⑤ 本講習の受講者数が適切であった。	4   3   2   1
⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。	4   3   2   1
⑦ 申し込みから終了までのスタッフの対応が適切であった。	4   3   2   1

◎ 本講習を受講してのご意見・ご感想等、お気付きの点がございましたら自由にお書きください。